



日本学生陸上競技連合会長 関岡 康雄氏への哀悼の言葉

副会長 神尾 正俊

この度、僭越ですが、関岡先生の足跡を私なりに記述させていただき、皆さんと一緒に先生を偲びたいと思います。

関岡康雄会長の訃報に接し、ただ「驚きと信じられない」と一瞬目の前が真っ白になられた方々が私同様、大勢いらっしゃったのではないのでしょうか？

9月4日の第85回日本学生陸上競技対校選手権大会で学生競技者への今後の支援や協賛社、競技運営者に対しての真摯な言葉で仕切られたばかりなのに……。本当にまだ、信じられません(信じたくありません)。

ご家族のお話では、平成28年9月12日午後10時29分、「アッ!」という間もなく、そして、先生は苦しまれることもなく、静かに旅立たれたとお聞きしております。

先生の教育研究の分野は、体育方法論(体育指導、コーチ学)ですが、その先生の原点は「スポーツは動き」であり、楽しんで実践するものであったと私は思っています。

先生の運動に対する観点は、東京教育大学体育学部の学生時代(もっと以前から?)から育まれたものと思いますが、慶応義塾大学志木高校(1958年赴任)での競走部の指導や自らが埼玉県代表選手として国民体育大会等での活躍の中、そして、東京教育大学附属中・高校(1961年赴任)時の研鑽で大きく磨き上げられたものでありましょう(この時期、あの関岡先生が円形脱毛症となられるほど、努力されたのです)。

そして、1964年から東京教育大学の我々学生に対する本格的な指導が始まりました。

その指導も学生を納得させることばかりではなく、「反抗心」に火を付けられました。今考えると、それは「演ずる本人」が鵜呑みでは無く、咀嚼して自分の技能にして欲しいことと、将来、指導者として羽ばたく我々への叱咤激励だったと思います。

この時代、先生が最も大好きな学生との対話ができない「安保闘争・大学封鎖」では先生の心痛を伺うことができました。そのような中で以前からスポーツの技術や指導のポイントは「動きの中での動き」と述べておられました(第21回日本体育学会(昭45.11月)の体育方法専門分科会シンポジウムの「運動技術の効果的指導法」についての中で発表され、話題

になりました。

筑波大学移転においても学内外の課題を解決し、競技者でも、指導者でも国際的にも活躍できる学生の指導に努力されました。又、筑波大学退官後は仙台大学、九州共立大学(特別客員教授)で学生に魅力的な授業を展開されたと聞いております。

日本陸上界でのコーチとしての活躍は1964年の東京オリンピックの天野義裕(4×400m R)、鳥居義正(棒高跳)両君をはじめとしてユニバーシアード大会(ソフィア、エドモントン、神戸、ザグレブ、デュイスブルグ、福岡)、アジア大会等の責任者、また日本陸上競技連盟の強化副委員長として、縁の下の力持ちに徹し、幾多の難題を解決されておりました。

学生陸上界との出会いは1954年の教育大入学に始まり、1956年、1957年関東学生陸上競技連盟の会計として競技運営に従事され、箱根駅伝の平塚コースの変更等の逸話を話されたその楽しそうな笑顔を忘れられません。

日本学生陸上競技連合においては、日本学連の強化委員長時、前述した陸連の強化副委員長を兼務され、「陸連」と「学連」のパイプ役としてご苦労されたようです。

ソウル・オリンピック後は、日本学連常務理事、同専務理事、同副会長を歴任し、この時期、公益社団法人設立に奔走され、そして2014年から第9代日本学生陸上競技連合会長として采配されていたことは皆さんご承知の通りです。その中には、全国の学生競技者の満足度を考え、北日本インカレ、西日本インカレにも課題を提示されたものもありました。先生の学生陸上の構想はまだまだ数多く、私には計り知れません。

皆さん、最後になりますが、意志半ばでの世界された関岡先生の崇高な「陸上論考」の何分の一かの達成のために学生競技者と真摯に努力しようではありませんか。宜しく願いいたします。

お奥様、ご家族、その他大勢の人に愛され、そして、それらの方々を愛された関岡先生 安らかに

哀悼の言葉を述べるのに適任な方はたくさんいらっしゃいますが、当発刊の時期等から私が記述させていただきましたことをお許しください。

平成28年9月18日

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第147号 (平成28年10月11日発行)

向上と進展

目次

哀悼の言葉	1
【海外派遣】	
2016香港インターシティ	3
【大会報告】	
西日本インカレ	4
第38回北日本インカレ	5
2016日本学生陸上競技個人選手権大会	7
2016オールスターナイト陸上	10
天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会	12
【会議報告】	
第21回理事会 議事録	16
第7回定時社員総会 議事録	24
第22回理事会 議事録	34
第23回理事会 議事録	38
【その他】	
競技委員会の活動（前期）	44
平成28年度強化委員会活動報告	45
「陸上競技研究」発行における	
平成27年度スポーツ振興くじ助成金の実施結果／平成28年度実施予算について	46
賛助会員／編集後記	47

【海外派遣】 2016香港インターシティ

大阪産業大学 村上 雅俊

香港の將軍澳陸上競技場にて「2016 香港インターシティ」が2016年6月25・26日の2日間開催され、日本学連から派遣された6名の学生を引率した。試合結果は、優勝3種目、3位が1種目と好成績を残すことができ、重責の一端は担えたのではないかと分析している。本稿は、この大会を引率したことによって体験したことを報告する。

派遣された学生は、多方面の地区学連から推挙された学生であったため、選手団は2班（成田組と関空組）に分かれて出国した。そのため、日本選手団は現地の宿泊ホテルにて合流となった。23日（木）に香港国際空港に到着後、香港陸連が派遣してくださった現地ガイド（香港に留学する韓国人大学生）にエスコートして頂き、大きな混乱もなく2班は合流することができた。その後、ホテルにて自己紹介を含めた簡単なミーティングと選手へのヒアリングを行い、長時間の移動による負荷と日本学生個人選手権の疲労を考慮して休養に充てた。

翌24日（金）は、午前9時より調整練習をメイン会場にて実施することに加え、レーンやピットのサーフェスや招集所の確認、競技場までの移動ルートの確認に努めた。この時点での天候は、晴れ、気温32℃、湿度84%と日本では体験できない気象条件であった（試合両日も同様の天候であった）。調整練習後には、同行した連合の蔵並香さんとともに、テクニカル・ミーティング（以下、TM）とウェルカム・ランチに参加した。TMでは、上訴にはUS \$ 100が必要と説明があり、事前に米ドルは準備しておいたほうが良いことが明らかになった。また、ウェルカム・ランチでは、各国のスタッフが公式ウェアを着て参加していたため、日本選手団も公式ウェアで臨まれたほうが良いのかもしれない。

試合に関して特徴的だったことは、1日目の女子走高跳と2日目の三段跳がそれぞれ早朝8時30分と45分から競技開始であったことである。日本の競技会では経験できない早朝7時45分からの召集開始に合わせたW-upなど困難な状況ではあったが、走高跳にエントリーした徳本鈴奈選手（福岡大）は、見事3位に入賞した。そのような難しさを感じる中で、優

勝した香港人選手のW-upは、コール開始30分前から10分ほどジョグを行ったのち、ストレッチのみで終了する内容であった。W-up内容の良し悪しの議論は別に譲るとして、その香港人選手は163cmから競技を開始し、184cmに挑戦（結果は177cm）するなど、高い競技レベルを発揮していた。早朝からの競技開始を考慮して、跳躍試技そのものをW-upとして位置づけていたのかもしれない。また、三段跳では、砂場から9m付近にテープ（未確認）で作成した黄色い臨時の踏切板が設置され、それを利用して跳躍する選手（優勝；13m00）がいたことには驚いた。1つの走路に2つの踏切板が設置（TMでは、踏切板から砂場までの距離は11mと説明）されていたのである。日本ではあまり見られない競技運営により、河合葉奈選手（大阪成蹊大；4位）と中山怜佳選手（至学館大；5位）は、跳躍イメージやリズムを作り上げにくくなり、難しい試合になったのではないかと考えられた（私はロンドン五輪やり投で採用されたスターティング・ラインの位置を回想した）。しかしながら、跳躍種目にエントリーした学生3名は、今後の世界大会などのモーニング・セッションや海外特有の競技会運営に適応できる有益な経験を得たのではないかと考えられた。

トラック競技では、空調の効いた海外選手用の控え室を有効活用しながらW-upを行い、十分な準備を行った。レース運営で特徴的だったことは、スターターのピストル音（電子音）がスピーカーに直接繋がれておらず、スピーカーでその音を直接拾っていたため、アウトレーンの選手は非常に聞き取りにくく、選手はいつも以上にフライングに留意するレースとなった（スターターはインレーンに配置）。そのような環境ではあったが、三原泰起選手（シニア400m：甲南大）、松清和希選手（ジュニア400m：福岡大）、田代優仁選手（ジュニア400mH：岩手大）は、3者とも独走で優勝する活躍を見せ、レース後は多くの選手から記念撮影や連絡先交換のリクエストを受けていた。余談ではあるが、優勝した選手の監督が表彰式のプレゼンターを努める習慣もあるようで、私服で参加していた私は、場違いなプレゼンター

ターとなってしまったようである。

以上のように、今大会に参加した6名の学生は、国内の競技会では経験できない状況下に順応しようと試みる精神的な強さを発揮し、今後の競技キャリアに有益に生かそうとする姿勢が見受けられた。今回の海外競技会での経験を生かし、翌年の台湾で開催

されるユニバーシアード日本代表選手になってもらいたいと願っている。最後に、堪能な英語力を駆使して献身的にチームをサポートしてくださった蔵並さんと貴重な経験の機会を与えてくださった日本学連強化委員長の栗山佳也先生にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

【大会報告】 西日本インカレ

2016年7月1日(金)～3日(日)にかけて、京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場において、東海・関西・中国四国・九州の4地区から男子1466名、女子940名、計2406名の選手が一堂に会し、秩父宮賜杯第69回西日本学生陸上競技対校選手権大会が行われました。

大会前日には、大雨の為に九州・中国四国を中心に各路線が遅れるなどもあり、一時は大会中の天候が心配されました。しかしすぐに雨も収まり、大会初日には朝から夏晴れの様相を呈し、無事大会開催にこぎつけることができました。

本年度は盆地である京都で行われたこともあり、大会前日の雨が嘘のような非常に高い気温で過酷な状況での競技会となりました。そういったコンディションの中でも女子4×100mRで立命館大学(小山・野林・山中・壹岐)が45秒61、環太平洋大学(青木・深川・松田・松井)が45秒64、中京大学(杉山・天城・伊達・丹羽)が45n秒81の大会新記録を樹立しました。女子砲丸投では太田亜矢選手(福岡大学)が15m90の記録で自身の持つ大会記録を更新し、女子最優秀選手賞に輝きました。また内堀弘樹選手(九州共立大学)は、ハンマー投において67m15で優勝し男子最優秀選手賞に輝きました。

関西学生陸上競技連盟 新井 志織、北口 凜

総合得点では、男子の部が150点で関西学院大学が67年ぶり2回目に優勝し、女子の部は105点で立命館大学が7年ぶり2回目に優勝しました。

選手としましては、西日本各地区のトップレベルの選手が、普段は交流の少ない異なる地区のトップレベルの選手と競い合い、新鮮な刺激を与え合ういい機会となったのではないのでしょうか。

運営面では、選手が良い状態でのパフォーマンスを発揮でき、観客を楽しませる競技会運営を目標にパブリシティ活動に力を入れました。初の試みとしては4地区学連統合のツイッターアカウントを利用し種目紹介・結果速報・優勝者インタビューを掲載した他、大会特設HPを作成し注目大学・注目選手・優勝者インタビューを掲載しました。ツイッターアカウント・特設HPは大会会場のスタンドの各所においてURLを読み込めるQRコードで案内しました。

改めまして、特別協賛を頂きました近畿日本ツーリスト株式会社様、協賛を頂きましたミズノ株式会社様、後援をいただきました京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都新聞の皆様や、大会運営に多大なるご協力をいただきました京都陸上競技協会の皆様に厚く御礼申し上げます。

【大会報告】

第38回北日本学生陸上競技対校選手権大会

北海道学生陸上競技連盟 幹事長 畑 耕太郎

1. はじめに

北日本3地区（北海道・東北・北信越）の加盟校による対校戦、北日本学生陸上競技対校選手権大会（以下、北日本インカレ）は今年で第38回大会を迎えた。北信越、東北、北海道の順で開催地を巡る本大会であるが、今回は北海道開催ということで北海道学生陸上競技連盟（以下、北海道学連）が主となり、日本学連をはじめ東北学連、北信越学連、札幌陸上競技協会の協力の元、運営にあたった。また、多くの審判や補助員等の支援もあり無事大会を終了することができた。ここでは北日本インカレ第38回大会を終え、その総括と今後の北日本インカレに関する動きについて個人的な意見を述べることにする。

2. 第38回大会総括

今大会の参加者数を見ると、北海道地区21校375名、東北地区14校256名、北信越地区12校109名、3地区合計47校740名であった。これは3年前に北海道で開催された第35回大会の合計699名と比べ増加している（図1）。東北地区に関しては、参加者数は減少したものの、北海道地区と北信越地区では参加者数は増であった。特に北海道地区は大きな伸びを見せている。

また、種目別の優勝数を第35回大会と比べると、北海道地区は14から20に、東北地区は24から20に、北信越地区は6から4に推移した（図2）。参加者数増の影響もあり北海道地区が優勝数を大きく伸ばした。特に今大会は男子長距離、女子リレー種目の北海道勢の活躍が目立った。

以上、参加者数・優勝者数について比較した。近年東北地区が3地区の先頭に立ち続けていた印象であったが、今大会で北海道

地区の競技レベルの向上が感じられた。ここで比較したのはあくまで表面上の数だけではあるが、今後の全国大会において駅伝やリレー種目を中心に北海道地区の活躍に期待するとともに、学連として強化に努めていこうと思う。

3. 北日本インカレの今後

現在、北日本インカレに関連して検討されていることが2点ある。開催地と全日本インカレ参加C標準についてだ。

1つ目の開催地について、先に述べたように現在北日本インカレは3地区の持ち回りで開催している。しかし、この開催地移動制を廃止し開催地の固定化を検討する動きがある。仮に開催地が固定された場合、それ以外の2地区にかかる宿泊費等の経済的な負担や移動による身体的な負担は開催地区に比べ非

表2 第35回大会と第38回大会の各地区優勝種目と優勝数の比較

	第38回			第35回		
	北海道	東北	北信越	北海道	東北	北信越
男子	100m	200m	400m	200m	800m	100m
	1500m	800m	三段跳	110mH	1500m	400m
	5000m	110mH	砲丸投	4×100mR	5000m	10000mW
	10000m	400mH		走高跳	10000m	ハンマー投
	10000mW	3000mSC		走幅跳	400mH	十種競技
	4×400mR	4×100mR		円盤投	3000mSC	
	走高跳	棒高跳		やり投	4×400mR	
	走幅跳	ハンマー投			棒高跳	
	円盤投	やり投			三段跳	
	十種競技				砲丸投	
女子	400m	100m	100mH	100m	400m	ハンマー投
	10000mW	200m		200m	800m	
	4×100mR	800m		3000mSC	1500m	
	4×400mR	1500m		走高跳	5000m	
	走高跳	5000m		棒高跳	10000m	
	走幅跳	10000m		砲丸投	100mH	
	砲丸投	400mH		円盤投	400mH	
	円盤投	3000mSC			10000mW	
	やり投	棒高跳			4×100mR	
	七種競技	三段跳			4×400mR	
	ハンマー投			走幅跳		
				三段跳		
				やり投		
				七種競技		
合計	20	20	4	14	24	6

表1 第35回大会と第38回大会の各地区参加者の比較

	北海道	東北	北信越
第35回	290名 (15校)	318名 (15校)	91名 (11校)
第38回	375名 (21校)	256名 (14校)	109名 (12校)

常に大きなものになることが予想される。特に北海道地区の学校が本州へ渡るときにかかる負担は大きく、北海道地区参加者数は、道内開催年は参加者数が300名近くになるが、本州開催年は100人を大きく下回ることも多い。特定の地区に負担が偏る固定化ではなく、それぞれに負担が分散する現在の移動制を北海道学連としては推していきたい。

2つ目の全日本インカレ参加C標準について、現在C標準は「各地区インカレと北日本インカレ・西日本インカレの優勝者」となっている。つまり、仮に記録がB標準記録に達していなくとも各インカレで優勝することで全日本インカレに出場できる。

現実問題、北海道地区の競技レベルからしてB標準記録を突破することは非常に難しく、北海道地区から全日本インカレに出場する選手の多くがC標準によるものである。その一方、高校時代の有力選手が集まる関東地区では、多くの選手がB標準ないしはA標準を突破するため、標準を突破していても人数制限により全日本インカレに出場できない選手が出てくる。つまり、全国大会である全日本インカレが、関東の地区大会より全体的な競技レベルが低くなるという事態が生じている。

このことを指摘され、現在C標準廃止がささやかれている。実際にC標準が廃止された場合、北海道を

はじめとする地方からの全日本インカレ出場者は確実に減少し、関東関西を中心とした大会になってしまうことが予想される。C標準廃止が全日本インカレの競技レベルの向上につながることは理解できる。しかし、全日本インカレとは別に学生の日本一を決める大会は「全日本学生個人選手権」として行われている。言葉が適切かは分からないが、地方排他の考えばかりではなく「インターカレッジ」の本来持つ意味を考慮した上で今後の議論が進むことを期待する。

4. おわり

これまで第38回北日本インカレの総括から、今後の全日本インカレについてまで個人的な意見とあわせて述べてきた。ただ、ここに挙げた議案はあくまですべて検討段階であり、それについてあくまで個人的な見解を述べたに過ぎない。随所に浅慮な考えが見られることと思うがご容赦いただきたい。

東洋大学の桐生選手をはじめとする学生選手が世界を舞台に活躍する姿を見ることが多くなった。これからの時代とともに学生陸上競技の体制の改革は避けられないのかもしれない。しかしながら、中央だけでなく地方も含めた全国の学生陸上競技の発展という基本理念だけは変わらないことを北海道学連幹事長としては願うのみである。

【大会報告】

2016日本学生陸上競技個人選手権大会

常任幹事 蔵並 香

6月10日(金)～12日(日)にかけて神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚(ハンマー投は東海大学湘南校舎陸上競技場)において2016日本学生陸上競技個人選手権大会が行われました。

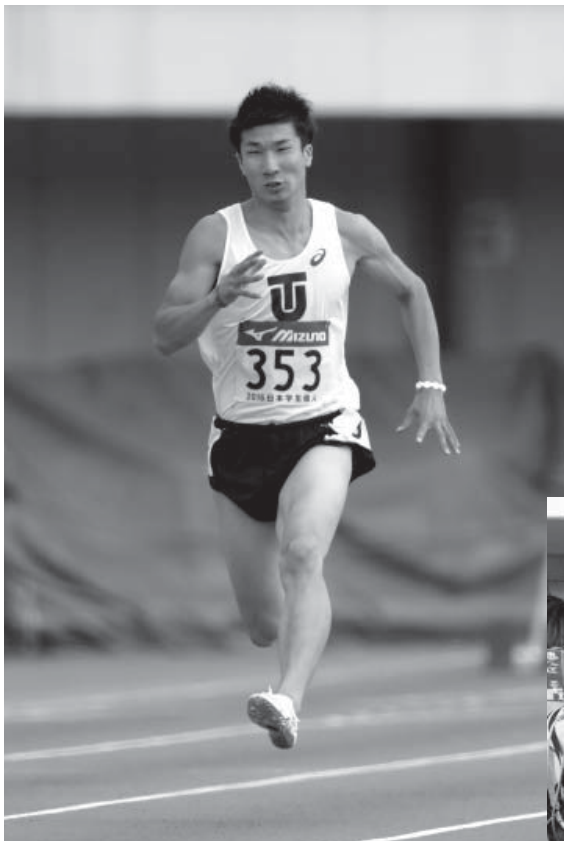
今年度の参加者数は男子が758名、女子が697名と昨年度より大幅に増え、トップレベルの選手も数多く参加する大会となりました。リオデジャネイロオリンピック直前ということもあり、桐生祥秀とウォルシュ・ジュリアン(ともに東洋大)の2名がオリンピック派遣設定記録を突破するのではないかと注目が集まりました。

その中始まった大会初日は、女子100mHで青木益未(環太平洋大)が13秒33の大会新記録をマークしたことを皮切りに、2日目は、男子400mでウォルシュ・ジュリアン、男子ハンマー投で植松直紀(中

京大)、女子10000mWで五藤怜奈(中部学院大)、女子やり投で瀧川寛子(東大阪大)、三日目は、男子やり投で中村克也(九州共立大)、女子砲丸投で郡菜々佳(九州共立大)、3000mSCで男子は宮城宍成(東海大)、女子は高見澤安珠と多くの大会新記録が樹立されました。中でも、大会2日目の男子100m準決勝で桐生祥秀が出した10秒01の記録は自身のもつ日本学生記録、また高校3年生時に出した自己ベストタイ記録となり、オリンピック派遣設定記録を突破するなど注目度の高い競技会となりました。

運営面では、今年度も優勝者インタビューなどのイベントプレゼンテーションや、競技場へ来ることのできない方でも競技の様子が気軽に見られるように動画配信サイト・Ustreamで配信するなど、「魅せる陸上競技」というコンセプトをもとに、より選手や観客に楽しんでいただけるような競技会づくりを行いました。

このように選手や観客の皆様楽しんでいただけるような競技会を作ることができるのは、ご協賛いただいたミズノ株式会社、ご協力いただいたシチズン時計株式会社、東日本旅客鉄道、後援の平塚市、平塚市教育委員会、運営協力をいただいている神奈川陸上競技協会、関東学生陸上競技連盟など関係の皆様のおかげでございます。誠にありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。今後とも日本学連を何卒よろしく願いいたします。



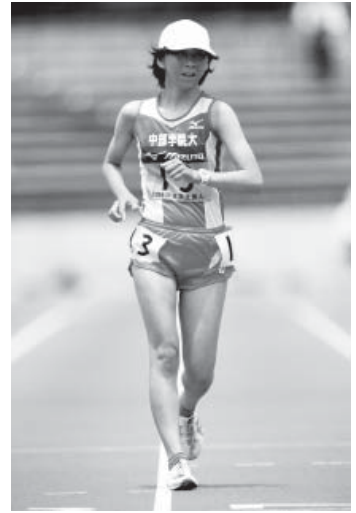
桐生祥秀(東洋大)は準決勝で日本学生新となる10秒01(+1.8)をマーク



日本人初の9秒台を期待し、たくさんの報道陣が押し寄せた



女子100mHの青木益未(環太平洋大)
は13秒33(+1.9)の大会新で3連覇



女子10000mWの五藤怜奈(中部学院大)も、2位以下に2分以上の大差をつける45分57秒22で3連覇



男子ハンマー投で68m05の大会新を
マークした植松直紀(中京大)



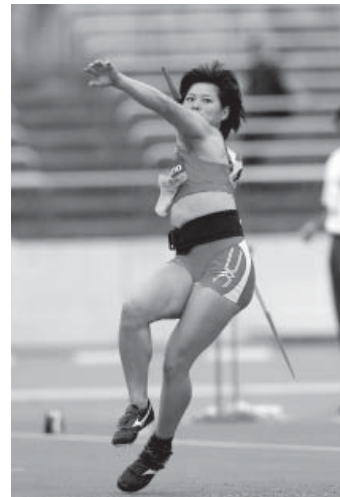
男子3000mSCは宮城竜成(東海大)
が8分51秒78の大会新で優勝



男子400mを45秒64の大会新で制したウォルシュ・ジュリアン
(東洋大)



男子やり投は大会新となる75m02をマークした
中村克也(九州共立大)が優勝



女子やり投で56m79の大会新をマークし優勝した
瀧川寛子(東大阪大)



女子3000mSCの高見澤安珠(松山大)は自己の持つ大会
記録を塗り替える9分57秒69
でV2



女子砲丸投を15m94の大会新で優勝した
郡菜々佳(九州共立大)はまだ1年生

【大会報告】

2016オールスターナイト陸上

(秩父宮賜杯第56回実業団・学生対抗陸上競技大会)

副幹事長 飯塚 啓子

平成28年7月23日(土)、神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚にて、2016オールスターナイト陸上(秩父宮賜杯第56回実業団・学生対抗陸上競技大会)が開催されました。

昨年から開催時期を7月末の薄暮の時間帯に移動し、Shonan BMW スタジアム平塚で、湘南の暑い夜にも負けない熱い勝負を繰り広げました。

それに加え、8月に行われたリオデジャネイロオリンピックの日本代表選手も出場し、活躍しました。男子100mでは、山縣亮太(セイコーホールディングス)が追い風参考記録ではありましたが、10秒09の好記録で優勝し、オリンピックに繋がる走りを見せました。また、男子棒高跳では、荻田大樹(ミズノ)、山本聖途(トヨタ自動車)が第1位、第2位に入賞し、日本代表の意地を見せる結果となりました。

総合得点では、実業団チームが218点、学生チームが175点と、学生チームは40点以上の大差で敗北しました。個人では、男子110mHで13秒52の大会新記録で優勝した大室秀樹(大塚製薬)と女子1500m

で4分16秒47の大会新記録で優勝した陣内綾子(九電工)が最優秀選手賞に選ばれました。敢闘賞には、男子走幅跳で大会タイ記録である8m01の大ジャンプを見せた城山正太郎(東海大北海道)が選ばれました。また、今大会からMIP賞が新設されました。MIPとは「Most Impressive Player = 最も印象に残った選手」の略です。大会当日に競技場に来てくださった観客の皆様またはUStream配信を視聴している観客の皆様の投票で、MIP賞の受賞者を決定しました。初代受賞者には、男子100mに出場した山縣亮太と女子100mHに出場し、自己新記録の13秒38で優勝を果たしたヘンプヒル恵(中央大)が選ばれました。

2016オールスターナイト陸上の見どころの1つでもある100m+200m+300m+400mRでは、男子は学生チームの男子主将を務めた大瀬戸一馬(法政大)が、第2走で実業団チームとの差を広げ、学生チームが1分50秒35で勝利しました。女子は第3走まで学生チームがリードしていたものの、女子400mHで第2位に2秒以上の差をつけ、優勝を果たし



110mHで13秒52の大会新で優勝した大室秀樹(大塚製薬)が男子最優秀選手賞



女子最優秀選手賞は1500mで4分16秒47の大会新記録で優勝した陣内綾子(九電工)



男子MIPは男子100mの山縣亮太(セイコーホールディングス)

た吉良愛美(アットホーム)が実業団チームの第4走で圧倒的な強さを見せつけ、実業団チームが2分06秒19で勝利しました。

今年度も本大会を無事に終了することができましたのは、神奈川県陸上競技協会並びに平塚市の皆様のご尽力と関係各位のご支援、ご協力があったことと、深く感謝する次第です。

来年以降もより良い大会にするべく精進してまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

100mHで自己新の13秒38で優勝した
ヘンピル恵(中央大)が女子MIP



男子スウェーデンリレーは学生の勝利。学生のアンカーは堀井浩介(城西大)、実業団は木村淳(大阪ガス)



女子スウェーデンリレーは実業団の勝利。実業団のアンカーは吉良愛美(アットホーム)、学生は吉見美咲(大阪成蹊大)

7月23日(土) 神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚

男子

- 100m(+2.6)
 - ①山縣亮太(セイコーホールディングス) 10.09
 - ②大瀬戸一馬(法政大) 10.27
 - ③馬場友也(LALL) 10.33
 - ④丸鬼 巧(NTN) 10.33
 - ⑤高橋周治(愛知医科大学) 10.33
 - ⑥長田拓也(法政大) 10.49
- 400m
 - ①東 魁輝(NTN) 46.89
 - ②堀井浩介(城西大) 46.92
 - ③木村 淳(大阪ガス) 47.50
 - ④三原泰起(甲南大) 47.81
 - ⑤高橋祐満(近畿大) 48.29
 - ⑥屋貝博文(アローズジム) 51.99
- 1500m
 - ①田中佳祐(富士通) 3:54.37
 - ②富原 拓(中央大) 3:55.14
 - ③荒井七海(東海大) 3:55.23
 - ④大西毅彦(アラタプロジェクト) 3:55.31
 - ⑤物江雄利(駒澤大) 3:55.61
 - ⑥マロン・アジズ航太(自衛隊体育学校) 4:03.47
- 110mH(+0.5)
 - ①大室秀樹(大塚製薬) 13.52
 - ②札幌大輝(モンテローザ) 13.81
 - ③金井大旺(法政大) 13.81
 - ④鍵本真啓(立命館大) 13.82
 - ⑤栗城アソニー(国際武道大) 13.95
 - ⑥佐藤大志(日立化成) 14.01
- 400mH
 - ①野口直人(順天堂大) 50.02
 - ②杉町マハウ(日本ウェルネス) 50.39
 - ③中野直哉(早稲田大) 50.41
 - ④須貝 充(新潟アルビレックスRC) 50.43
 - ⑤吉田和晃(大阪ガス) 50.50
 - ⑥大林智享(近畿大) 52.38
- スウェーデンリレー
 - ①学生 1:50.35
(高橋、大瀬戸、中野、堀井)

実業団 1:51.37

- (馬場、丸鬼、杉町、木村)
- 棒高跳
 - ①荻田大樹(ミズノ) 5.60
 - ②山本聖途(トヨタ自動車) 5.40
 - ③来間弘樹(順天堂大) 5.40
 - ④鈴木康太(中京大) 5.30
- 走幅跳
 - ①城山正太郎(東海大北海道) 8.01(+1.2)
 - ②小西康道(白樺学園高教) 7.74(+1.5)
 - ③嶺村鴻汰(モンテローザ) 7.67(+2.6)
 - ④佐久間滉大(法政大) 7.62(+1.7)
 - ⑤津波響樹(東洋大) 7.58(+0.9)
 - ⑥松原瑞貴(新潟アルビレックスRC) 7.51(+1.8)
- 円盤投
 - ①堤 雄司(群馬総合ガードシステム) 57.59
 - ②知念 豪(ゼンリン) 54.83
 - ③米沢茂友樹(東海大) 54.74
 - ④前田 奎(S.T.T) 53.59
 - ⑤近藤 廉(順天堂大) 49.51
 - ⑥首藤大輝(日本大) 46.12
- やり投
 - ①高力裕也(鳥取県庁) 75.99
 - ②長谷川鉦平(福井県体協) 75.78
 - ③中村克也(九州共立大) 74.67
 - ④新垣暁登(日立ICT) 72.64
 - ⑤関 和紀(国士館大) 69.98
 - ⑥神田直仁(大阪大) 68.97
- お団子
- 円盤投
 - 畑山茂雄(ゼンリン) 51.71
- やり投
 - 荒井 謙(七十七銀行) 67.79
- ◆男子総合
 - ①実業団:108点②学生:87点

女子

- 100m(+1.1)
 - ①前山美優(新潟医療福祉大) 11.72
 - ②三宅奈緒香(住友電工) 11.85
 - ③今井沙緒里(飯田病院) 11.88
 - ④藤森安奈(青山学院大) 11.89
 - ⑤西尾香穂(甲南大) 11.93
 - ⑥中野 瞳(和食山口) 12.00
- 400m
 - ①青山聖佳(大阪成蹊大) 54.35
 - ②伴野里緒(七十七銀行) 54.41
 - ③新宅麻未(アットホーム) 54.57
 - ④武石この実(東邦銀行) 54.77
 - ⑤吉見美咲(大阪成蹊大) 55.47
 - ⑥佐藤静香(新潟医療福祉大) 55.66
- 1500m
 - ①陣内綾子(九電工) 4:16.47
 - ②西脇 舞(天満屋) 4:21.56
 - ③新井沙紀枝(大阪学院大) 4:23.07
 - ④高見沢里歩(松山大) 4:24.57
 - ⑤沖田真理子(新潟アルビレックスRC) 4:28.44
 - ⑥橋本奈津(京都産業大) 4:28.99
- 100mH(+1.1)
 - ①ヘンピル恵(中央大) 13.38
 - ②紫村仁美(東邦銀行) 13.39
 - ③青木益未(環太平洋大) 13.55
 - ④安部遥香(福島大) 13.85
 - ⑤藤原未来(住友電工) 13.96
 - ⑥山手美久莉(多摩落合中教) 14.00
- 400mH
 - ①吉良愛美(アットホーム) 57.09
 - ②梅原紗月(立命館大) 59.13
 - ③藤原未来(住友電工) 59.19
 - ④近藤夏奈(環太平洋大) 59.25
 - ⑤芝田陽香(ミススポーツサービス) 59.75
 - ⑥南野智美(早稲田大) 60.55
- スウェーデンリレー
 - ①実業団 2:06.19
(三宅、今井、伴野、吉良)

学生 2:07.89

- (藤森、前山、青山、吉見)
- 走高跳
 - ①福本 幸(甲南大職) 1.73
 - ②渡邊有希(ミライト・テック/ロジーズ) 1.73
 - ③仲野春花(早稲田大) 1.73
 - ④原香葉子(関西学院大) 1.70
 - ⑤小野美紗(日本女子体育大) 1.70
 - ⑥相馬由佳(十日町市役所) 1.65
- 三段跳
 - ①宮坂 楓(ニッパツ) 13.21(+1.1)
 - ②喜田愛以(ミライト・テック/ロジーズ) 12.89(+2.7)
 - ③河合某奈(大阪成蹊大) 12.89(+2.1)
 - ④菊持早紀(筑波大) 12.49(+1.3)
 - ⑤前田和香(スーパーホテル) 12.47(+0.7)
 - ⑥豊野美古都(関大) 12.29(+3.3)
 - ⑦ 12.03(+1.1)
- 砲丸投
 - ①太田亜矢(福岡大) 16.12
 - ②吉野千明(日本女子体育大職) 14.98
 - ③松田昌己(新潟アルビレックスRC) 14.79
 - ④茂山千尋(多摩落合中教) 14.56
 - ⑤西川チカコ(福岡大) 14.37
 - ⑥長沼 瞳(国士館大) 14.18
- ハンマー投
 - ①勝山眸美(筑波大) 63.82
 - ②渡邊 茜(丸和運輸機関) 62.19
 - ③佐藤若菜(東邦銀行) 59.18
 - ④中島未歩(中島) 57.03
 - ⑤本村夏鈴(九州共立大) 56.02
 - ⑥江原宇宙(筑波大) 55.14
- ◆女子総合
 - ①実業団:110点②学生:88点
- ◆男女総合
 - ①実業団:218点②学生:175点

【大会報告】

天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会

幹事長 山之口 航

9月2日(金)～4日(日)にかけて、埼玉・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場において、天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会が行われました。本大会を熊谷で行うのは、第83回以来2年ぶりです。9月初めの残暑厳しい中、「あついぞ!熊谷」にも負けないような、学生アスリートの熱く激しい戦いが繰り広げられました。

今大会は、8月のリオデジャネイロオリンピックに出場し、4×100mRで銀メダルを獲得した桐生祥秀(東洋大)が100m、200m、4×400mRで3冠を達成し、大会の主役となりました。女子では、200m、400m、4×100mR、4×400mRで優勝した青山聖佳(大阪成蹊大)が4冠とタイトルを総なめし、歴史に名を刻みました。

対校得点争いでは、日本大学が総合力を見せつけ、男子総合優勝の証である天皇賜盃を獲得しました。今大会で5連覇を達成し、連続優勝記録をまた1つ更新しました。女子総合では、大阪成蹊大学が5種目で優勝し、総合初優勝を果たしました。昨年の立命館大学に続き、2年連続関西地区へ秩父宮妃杯が渡ることとなりました。

運営面では、昨年に引き続き、観客の方楽しんで

いただけるような競技会運営を目標に、TwitterなどのSNSを活用した事前・当日の盛り上げ活動をはじめとした広報活動に力を入れました。各地区学連をはじめとして、次第に「魅せる陸上競技」というコンセプトが学生陸上競技界でも浸透し始めているように感じています。来年は、関東圏を離れての開催となります。遠隔地でもより多くの方に競技の様子が見ていただけるように、インターネット配信などにも力を入れていきたいと考えております。

次大会は、福井・福井県営陸上競技場にて第86回の日本インカレを開催します。来年も、学生トップアスリートの素晴らしいパフォーマンスと胸を打つ感動にあふれる大会になることでしょう。

改めまして、毎年ご協賛をいただいておりますミズノ株式会社、ご協力をいただきました東日本旅客鉄道株式会社、当日の競技運営でご協力をいただきました埼玉陸上競技協会、関東学生陸上競技連盟の皆様、誠にありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。これからも学生陸上競技界の更なる向上と進展を目指し、尽力していきたいと思っておりますので、今後とも日本学連を何卒よろしくお願いいたします。



10秒08(+1.1)の大会新で男子100mに圧勝した桐生祥秀(東洋大)

桐生(右端)が2走を務めた東洋大は4×400mRの初優勝を遂げた





女子総合は昨年、立命館大が筑波大の7連覇を阻み初優勝したが、今年は大坂成蹊大学が初優勝に輝いた



女子リレーは大坂成蹊大学が両種目とも圧勝。アンカーの青山聖佳は100m、200mにも優勝し4冠



女子400mHは梅原紗月(立命館大、左)が100分の2秒差となる56秒79で石塚晴子(東大阪大)に先着。ともに大会新



女子3000m SCは松山大の高見澤安珠と岡田佳子がワンツー。3位の藪田裕衣(京都産業大)までが大会新

男子総合は日本大学が2位に42点差をつけ堂々5連覇



女子七種競技はヘンプヒル恵(中央大、左)が5547点で優勝。右の山崎有紀(九州共立大)も5536まで追い上げ、ともに大会新をマークした

第85回 日本学生陸上競技対校選手権大会決勝一覧

9月2日(金)～4日(日)
会場：埼玉・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

男子	
●100m(+1.1)・3日	
①桐生祥秀(東洋大3)	10.08=大会新
②長田拓也(法政大4)	10.28
③多田修平(関西学院大2)	10.30
④大瀬戸一馬(法政大4)	10.34
⑤大嶋健太(日本大1)	10.34
⑥魚里勇介(筑波大4)	10.43
⑦宮崎幸辰(東北大4)	10.44
⑧竹田一平(中央大2)	10.45
●200m(-0.1)・4日	
①桐生祥秀(東洋大3)	20.60
②川瀬孝則(日本体育大4)	20.82
③橋元晃志(早稲田大4)	21.01
④山下 潤(筑波大1)	21.02

⑤小池祐貴(慶應義塾大3)	21.27
⑥魚里勇介(筑波大4)	21.27
⑦谷口耕太郎(中央大4)	21.30
⑧西端公志(関西学院大2)	21.34
●400m・2日	
①ウォルシュ・ジュリアン(東洋大2)	45.93
②小林直己(東海大4)	46.87
③山木伝説(日本大3)	46.89
④板鼻航平(順天堂大4)	46.93
⑤堀井浩介(城西大4)	46.97
⑥加藤修也(早稲田大3)	47.03
⑦許崎充洋(日本大3)	47.18
⑧古川慶次(新潟医療福祉大2)	47.68
●800m・4日	
①三武 潤(日本大4)	1.49.18

②市野泰地(岐阜経済大4)	1.49.21
③田母神一喜(中央大1)	1.49.58
④村島 匠(順天堂大3)	1.50.09
⑤新安直人(順天堂大M1)	1.50.14
⑥齋藤未藍(青山学院大3)	1.50.84
⑦渡邊悠弥(日本大4)	1.50.93
⑧白石浩之(順天堂大4)	1.56.37
●1500m・2日	
①齋藤雅英(早稲田大1)	3.50.01
②舟津彰馬(中央大1)	3.50.70
③林竜之介(東海大4)	3.50.90
④才記社人(筑波大4)	3.51.94
⑤田母神一喜(中央大1)	3.52.25
⑥仲村尚毅(関西学院大3)	3.52.31
⑦富原 拓(中央大1)	3.52.46

⑧大手敬史(日本体育大4)	3.52.48
●5000m・3日	
①バリック・マゼン・フアビ(日本大2)	13.51.99
②石川颯真(日本大4)	13.53.86
③一色恭志(青山学院大4)	13.54.60
④新迫志希(早稲田大1)	13.55.34
⑤平 和真(早稲田大4)	13.57.70
⑥田村和希(青山学院大3)	13.58.16
⑦関 颯人(東海大1)	13.59.69
⑧鬼塚翔太(東海大1)	14.02.68
●10000m・2日	
①バリック・マゼン・フアビ(日本大2)	29.00.51
②ドミニク・ニヤロ(山梨学院大2)	29.08.38
③武田凜太郎(早稲田大4)	29.25.95
④ジェフリ・ギチア(第一工業大2)	29.46.15

日本インカレ役員懇親会を開催

恒例の日本インカレ役員懇親会を平成28年9月1日(木)18:30より、マロードイン熊谷にて開催しました。当日は、大会スポンサーのミズノ株式会社の皆さまを初め、

日頃お世話になっているメディアの方、日本学連、埼玉陸協の関係者、来年の日本インカレでお世話になる福井陸協の関係者など100名以上のご出席をいただき、盛大に催されました。



栄章贈与式

第85回日本インカレ3日目に栄章贈与式を行いました。

前列左から2番目が今は亡き関岡康雄会長。

出席者は次の通り(敬称略)。

地区	名前
関 東	日隈 広至
関 東	秋山 勉
東 海	黄倉 寿雄
関 西	馬場 重行
関 西	浅井 明輝
中国 四国	隴本 武直
九 州	得居 雅人
連 合	松本 正之
連 合	障子 恵
連 合	蒲原 一之



平成28年度勲功章

リオデジャネイロオリンピック400mリレーで見事銀メダルに輝いた桐生祥秀君に平成28年度勲功章を贈与。



公益社団法人日本学生陸上競技連合

第21回理事会 議事録

1. 開催された日時

平成28年5月7日(土) 13時55分から16時25分まで

2. 開催された場所

中央大学駿河台記念館 620号室

3. 理事総数及び定足数

現在数 22名、定足数 12名

4. 出席理事数

19名

(出席)青葉 昌幸、浅見美弥子、阿保 雅行、有吉 正博、伊東 浩司、岩本 慎一、植田 恭史、金子今朝秋、蒲原 一之、神尾 正俊、栗山 佳也、澤木 啓祐、三條 俊彦、杉山 喜一、関岡 康雄、関根 春幸、永井 純、永井 立子、和田 正信

(欠席)杉田 正明、外園 隆、横川 和幸

(監事出席)山本 俊樹

(監事欠席)黒岩 重幸

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：平成27年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案：平成28年度会員入会の承認について

第3号議案：規程改定について

- ・旅費支給規程
- ・委員会規程
- ・記録承認種目に関する規程

第4号議案：強化委員会・総務委員会について

第5号議案：第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会について

第6号議案：その他

【報告事項】

①会務の報告(平成28.3.6.以降)

②各主催大会等の状況について

- ・第56回実業団・学生対抗陸上競技大会について
- ・第48回全日本大学駅伝「全日本大学選抜チーム」について
- ・2016全日本大学女子選抜駅伝(富士山女子駅伝)コース変更について

③関東学連派遣理事及び正会員について

④台湾国際陸上出場メンバーについて

⑤2017東京マラソン準エリートについて

⑥就職支援プロジェクトについて

⑦H28年度基金助成およびtoto助成金(陸上競技研究助成金)について

⑧その他

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認

大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

関岡康雄会長が議長となり、本会議の開会を宣した。

議事録署名人は定款第33条に基づき、関岡康雄会長、青葉昌幸副会長、山本俊樹監事となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案：平成27年度事業報告及び決算の承認について

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。

なお、提案の際、事業報告について、公1の主な事業として、日本学生陸上競技対校選手権大会が大阪で行われ女子では立命館大学が初優勝したこと、実業団・学生対抗陸上大会が初めてナイターとして開催したこと、日本学生陸上競技個人選手権を「公1：競技会」「公2：育成」に分けたことについては、チャイニーズタイペイの学生参加が国際交流に当たるといことで分けたことの説明、公2では、ユニバーシアード大会で好成績を収めたこと、世界大学クロスカントリー大会で男子団体が銀メダル、女子団体が金メダルであったこと報告があった。続いて決算については経常収益計124,668,837円、経常費用計120,196,570円で差引黒字4,472,267円の説明があった。

その後、大西清司事務局長から決算案の補足説明があった。貸借対照表の特定資産において、内閣府に提出済みの計画にそった積立資産のこと、ニューカレドニアへの派遣を取り止めたため、取り崩して海外ロードレース遠征積立金としたこと、世界大学クロスカントリー選手権大会を平成27年度から日本学連の経費で派遣することになり積立資産を新設し

たこと、正味財産増減計算書の説明として、受取協賛金について今回の決算より一部を受取負担金に変更したこと、受取助成金の増額についてスポーツ振興センターから満額回答があったこと、受取負担金の増額について全日本大学駅伝選手権大会および全日本大学女子駅伝選手権大会の勘定科目変更によることの説明があった。また経常費用において、旅費交通費の増額の要因として、大阪での日本学生陸上競技対校選手権大会開催、ユニバーシアード大会派遣、世界大学クロスカントリー選手権大会派遣によること、賃借料の増額について日本学生対校選手権大会(大阪)の競技場使用料が主な要因であること、支払負担金の増額について日本陸連のデータバンク登録料を雑費から変更した部分があるということの説明があった。

その後、山本俊樹監事より事業報告について法令・定款に違反することはなかった。財務諸表・財産目録について4月27日に黒岩重幸監事と確認し、違反することはなかったとの報告があった。

審議の結果、平成27年度事業報告及び決算案を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案：平成28年度会員入会の承認について

永井純専務理事から、資料に基づき提案があり、5月7日時点で18,752人の普通会員登録があり、昨年度同様に本年度も20,000人突破の可能性が大きいとの説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案：規程改定について

- ・旅費支給規程
- ・委員会規程
- ・記録承認種目に関する規程

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。資料については分かりやすく表にしたこと、国内出張については、会議派遣と大会派遣に分けたこと、さらに大会派遣については、宿泊を伴わない場合も夕食を考慮し、日当を4000円としたこと、今までに規定されていなかった医師日当を20,000円としたこと、海外旅行の傷害保険内容について陸連と合わせたことについて説明があった。委員会規定については総務委員会を機能的に活動できるよう総務部と女子部を撤廃し、それに伴い26名以内としたこと、強化委員会も全体の競技を見られるように26名以内としたこととの説明があった。記録承認種目に関する規定につ

いては日本記録の取扱にあわせて、メドレーリレーを日本学生記録からはずしたが、競技種目を削るわけではないとの説明がされた。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案：強化委員会・総務委員会について

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。強化委員会について跳躍と投擲が追加になること、機能的にするために強化委員会とヘッドコーチ部会で分けること、そのヘッドコーチ部会は専務理事の諮問機関という形を取りつつ、強化委員長の要請で強化委員会に出ることについて説明、提案があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

(栗山佳也理事) 今まで全員集まって話をする機会が難しかったため、それぞれの専門を生かして競技会の日程や標準記録について協議をし、強化委員会に上げたあとと理事会に上げてもらった方が、効率がよいのではないかと思う。

(関岡康雄会長) 地区学連のヘッドコーチが強化委員会に入っていたのは、8地区すべてが強くなってほしいためである。駅伝等の枠の振り分けも不利益がないようにと思っていたが、作業量が増えたことで、全員で集まり会議をやるのが難しくなった。それをふまえての提案である。特に、ヘッドコーチ部会と強化委員会がどう結びついていくかを考えてもらいたい。ヘッドコーチは各地区学連の会長の下でその学連を動かしていく。会長・ヘッドコーチ・幹事長が柱となっている。加盟団体として会計報告などを内閣府に出していくとなるとヘッドコーチの負担も大きくなる。この提案の方が良くなると思う。とにかくやってみて、不都合があれば修正していくということはどうだろうか。

(杉山喜一理事) スピーディーに決定する方向はいいが、地区のヘッドコーチ部会はいったい何をするのかがよく分からない。

(関岡康雄会長) ヘッドコーチで横の関係をとりながら、地区学連を動かすということをやってもらいたい。

(杉山喜一理事) 地方の意見の吸い上げはどこでやるのか。

(関岡康雄会長)

強化委員会のメンバーを見ると、関東が多いので心配なことも多いだろう。偏りのない意見がない

ようにとこれまで8地区ヘッドコーチに入ってもらっていた。それはそれでヘッドコーチ部会でやっていきたいと思います。

(和田正信理事) これまで地方に対して偏った意見もあった。それに対し、各ヘッドコーチがまとまって修正してきた経緯もある。それが今回排除される。必要に応じてヘッドコーチ部会を呼ぶのではなく、確実に呼ぶ方が良いのではないか。機能的なのは分かるが、地区からの意見が吸い上げにくくなることの懸念がある。駅伝、インカレの標準記録についての話もある。おそらくこの強化委員会のメンバーで決めると、地区の意見が反映されにくくなるのは確実ではないか。

(関岡康雄会長) オブザーバーという文言をはずして、専務理事、あるいは強化委員長直轄のヘッドコーチ部会として強化委員会に入れた方がという話もあるが、26人こえてもよいか？

(大西清司事務局長) 理事会の総意であれば良いが、効率的な人数を考え、上限を定めておく必要はある。

(青葉昌幸副会長) 強化委員会の競歩部に酒井俊幸氏が入っている経緯について教えてほしい。

(永井純専務理事) 推薦され、本人が承諾し、リオにも行くことになっている。駅伝の監督をやっているが競歩にも携わっており、勉強会など熱心に行っている。

(澤木啓祐副会長) 中・長距離部会にも入れてもらいたい。

(関岡康雄会長) 強化委員会の編成については、酒井俊幸氏を中・長距離部会にも加えるということと、原案の分離されているヘッドコーチ部会を強化委員会に入れるということによりか。

(永井純専務理事) 合わせて資料5の強化委員会の最大人数26人を34人にしたい。

審議の結果、提案内容一部修正して承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案：第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会について(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。松江レディースハーフと併催で継続することの説明があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

(関岡康雄会長) 松江市長から学生を大切にしたいという話があった。なんとか北からも南からも来てほしいのでできる限り松江で行いたいという提案。立川開催に問題がないわけではなく、関係各所との話し合いが必要。

(青葉昌幸副会長) 男子の立川ハーフの参加費が3,000円で、女子が2,000円では整合性がとれないのではないか。

(神尾正俊理事) 以前から主催者に対して2,000円にしてほしいという交渉をしているが、主催者が変更になったこともあり、あらためて主催者である立川市に対して交渉を続けてはどうか。

(関岡康雄会長) しばらく2,000円据え置きでお願いしたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案：その他(資料)

永井純専務理事から、実業団対学生の要項案について提案があった。開催日は7月23日で、学生の選考会は地区インカレと個人選手権での記録上位の3人からあたっていくこと、競技種目は男女10種目で確定したこと、ユニホームは実業団からの希望もあり、所属チームのユニホームを着用すること、ナンバーカードの色を実業団と学生で分けるとのことで合意したこと、表彰の所は詰めていないが、賞金にしても賞品にしても増額することは合意したことの説明があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

(関岡康雄会長) ユニホームに関してスポンサーが納得するのか確認してほしい。また、賞金となった場合、税金も考慮する必要があるのではないか。

(永井純専務理事) 日本学連だけで決定できないので、今後平塚市、実業団陸上連合と会合を重ね詳細を詰めていく。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

①会務の報告(平成28.3.6.以降) (資料)

永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。

②各主催大会等の状況について (資料)

永井純専務理事から、第56回実業団・学生対抗陸上競技大会については協議事項で確認したこと、第48回全日本大学駅伝「全日本大学選抜チーム」につい

て継続すること、2016全日本大学女子選抜駅伝（富士山女子駅伝）は決定ではないがコース変更を検討している点について報告があった。

③関東学連派遣理事及び正会員について

永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。

④台湾国際陸上出場メンバーについて

栗山佳也理事から、資料に基づき報告があった。

⑤2017東京マラソン準エリートについて（資料）

永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。

⑥就職支援プロジェクトについて

永井純専務理事から、日本実業団陸上競技連合の西川晃一郎会長からの話として、学生と企業のジョイントの提案があったこと、仲介やあっせんはできないが、希望する大学からその大学の就職課や学生課、キャリアセンターを通した方が良いのではという話をしたと報告があった。

⑦H28年度基金助成およびtoto助成金（陸上競技研究助成金）について

永井純専務理事から、日本スポーツ振興センターから日本学生陸上競技対校300万、個人選手権200万

の助成を申請し満額回答があったこと、陸上競技研究についてtotoの助成で2,138,000円の交付が決定したことが報告された。

⑧その他

永井純専務理事から、熊本県の震災について熊本県と熊本市に会長裁量経費で3万ずつ計6万円を送ったことの報告があり、また、関岡康雄会長より九州学連、熊本陸上競技協会にお見舞いの手紙を送ったことが報告され、岩本慎一理事から震災への励まし、支援についてのお礼があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時25分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

第20回理事会（平成28年3月6日）以降の職務執行の状況報告

平成28年～

日	行事（報告内容）
3月6日(日)	第19回日本学生ハーフマラソン選手権大会 於：国営昭和記念公園
3月12日(土)	第20回世界大学クロスカントリー選手権大会(イタリア/カッシーノ)3/9～14
3月17日(木)	指導者会議部会 於：日本学連事務所
3月20日(日)	第19回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 於：松江市
3月20日(日)	第10回日本学生20km競歩選手権大会 於：能美市
3月21日(月)	2016年開催/日本インカレ(福井市) 会場下見/打合せ 於：福井市
3月24日(木)	2015全日本大学女子選抜駅伝 監査 於：日本学連事務所
3月27日(日)	第16回仁川国際ハーフマラソン 於：韓国/仁川市
3月28日(月)	全日本大学駅伝/第50回大会に向けて意見交換会 於：中央大学駿河台記念館
3月28日(月)	内閣府/平成28年度事業計画等提出(定期提出)
4月1日(金)	2015年陸上競技研究toto助成最終報告書提出
4月4日(月)	第1回就職支援プロジェクト準備会議 於：日本学連事務所
4月7日(木)	平成28年～強化委員会運営に関するミーティング 於：日本学連事務所
4月11日(月)	全日本大学駅伝代表委員会準備会議 於：日本学連事務所
4月11日(月)	陸上競技研究編集会議 於：陸上競技社
4月15日(金)	就職支援プロジェクト/実業団陸上連合ミーティング 於：協和発酵キリン
4月15日(金)	日本学生陸上競技個人選手権大会 審判編成ミーティング 於：神奈川陸協事務所
4月18日(月)	競技委員会 於：日本学連事務所
4月19日(火)	第34回全日本大学女子駅伝/読売新聞社ミーティング 於：日本学連 事務所
4月20日(水)	指導者会議運営委員会 於：日本学連事務所
4月21日(木)	全日本大学女子選抜駅伝(富士山女子駅伝)実行委員会 於：テレビ静岡
4月22日(金)	全日本大学駅伝 代表委員会/小委員会 於：朝日新聞名古屋本社
4月27日(水)	平成27年度/事業、会計監査 於：日本学連事務所
4月28日(木)	企画委員会 於：日本学連事務所
4月29日(金・祝)	第56回実業団・学生対抗陸上 準備会議 於：日本学連事務所
5月7日(土)	第21回理事会 於：中央大学駿河台記念館

（目的）

第1条 この規程は、公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下、「この法人」という。）の役員及び職員等が、この法人の命により出張する場合の旅費について、定めるものとする。

（旅費の種類）

第2条 旅費の種類は、次のとおりとする。 （1）国内出張旅費
（2）海外出張旅費

（1）国内出張旅費

- 自宅の最寄り駅又はバス停から経済的最短ルートにより支給する。
- 鉄道利用に際し片道がおおむね100 kmを超える場合は、特急料金（新幹線を含む）を支給することができる。
- 最速陸路おおむね4時間以上の場合、空路により旅費を支給することができる。空路利用の場合は、可能な限り経済的な航空券を購入し、領収書を必要とする。
- 宿舍選定の目安は、おおむね10,000円とする。
- 前項の宿泊料を上回る宿舍を手配せざるを得ない場合（専務理事の事前承認が必要）や業務上専務理事が必要と認めた場合は、実費とする。

【会議派遣】

区分	交通費	日当	宿泊
名誉会長 会長 顧問	実費 (鉄道はグリーン料金) 自家用車使用でも上記適用	1000円/日	指定宿舍
理事（副会長以下） 監事 参与 専門委員 事務局員	実費	※片道100kmを超える移動を伴う場合は2000円/日 ※5時間を超える場合は大会派遣と同じとする	

※学生役員については、日当を支給しない

【大会派遣（本連合主催又は共催）】

区分	交通費	日当	宿泊
名誉会長 会長 顧問	実費 (鉄道はグリーン料金) 自家用車使用でも上記適用	4000円/日 (宿泊を伴う場合は宿泊数+1)	指定宿舍
理事（副会長以下） 監事 参与 専門委員 事務局員	実費		
競技会医師	実費	20000円/日	指定宿舍

※本連合以外の所属先等から旅費が出ている場合は支給しない。

※学生役員のうち、本連合で負担する地区学連出席者の数については別途定める。

※医師の日当は上記金額から源泉徴収を行うものとする。

（2）海外出張旅費（海外遠征、合宿を含む）

- 航空運賃は、エコノミー運賃とし、特段の事情のない限り割引チケットの利用を原則とする。

但し、専務理事が業務の都合上必要と認めた場合は、この限りではない。

区分	交通費	日当	宿泊
名誉会長 会長 顧問	3000円/日 ユニバーシアード大会派遣役員 5000円/日	4000円/日 (宿泊を伴う場合は宿泊数+1)	指定宿舍
理事（副会長以下） 監事 参与 専門委員 事務局員			
競技会医師	実費	20000円/日	指定宿舍

※食事代は、出張先の状況を勘案して相応の食事代を支給する。

※出張者には出発の日を起点として、海外傷害保険を付保し、保険料はこの法人が負担する。補償の内容は別途定める。

※ユニバーシアード大会派遣日当および医師の日当は上記金額から源泉徴収を行うものとする。

（雑則）

第3条 本規程に定めるもののほか、事務の処理に関して必要な事項は、専務理事と事務局長が協議して決める。

（改廃）

第4条 この規程の改廃は、理事会の決議による。

学生準エリート部の実施要項

【実施概要】

学生マラソン競技力向上、さらに未来の日本陸上界を担うランナー発掘を目的に、東京マラソン財団が「RUN as ONE - TOKYO MARATHON」プログラムを通じて、日本学生陸上競技連合に対し出場枠を提供いただくことになりました。

2017年は、第29回ユニバーシアード(2017/台北)大会も開催されますが、今回の提携を機に学生競技者のマラソンに挑戦する機会を提供、推進します。

■東京マラソン 2017 開催日

2017年2月26日(日)

【参考】第29回ユニバーシアード(2017/台北)選考競技会として

男子：第20回日本学生ハーフマラソン選手権(立川)3月5日(日)

女子：第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権(松江)3月19日(日)

■選考対象

2016年度 日本学生陸上競技連合普通会員

■準エリート推薦基準タイム(仮)

ハーフマラソン 男子 1時間07分以内、女子 1時間17分以内

■選考枠

男女合計 30~50名

■エリートへの繰上げについて

日本陸上競技連盟と協議し、認められた場合のみ、学生の上位者10名程度を(上限10名)をエリートカテゴリーに繰上げる。

■2017大会の推薦枠

①第20回日本学生ハーフマラソン選手権大会及び第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権出場者：上位20~30名

②地区学連を通じ日本学連に推薦：10名程度

③日本学連強化委員会の推薦：10名程度

■ランナーの選定

推薦枠①の競技者：9月中旬までに参加意思表示を日本学連に連絡する。

推薦枠②の競技者：(月 日)までに参加意思表示を地区学連事務所に連絡し、地区学連は9月中旬までに参加希望者リストを日本学連に提出する。

■申し込み方法

<仮エントリー>

推薦枠①~③のカテゴリーの競技者は、所定のエントリーフォーム(仮エントリー)に記載し10月14日(金)までに日本学連にメールで申し込み、同時にエントリー代金10,800円を日本学連指定の口座に振り込む。

【注意】仮エントリー後は出場を取消してもエントリー代金10,800円の支払い義務が生じるので注意のこと。

<本エントリー>

仮エントリーした者は、11月15日(火)~11月30日(金)までに競技者自身でwebにて本エントリーを行う。

■ナンバーカード引き換え

①1月下旬までに大会事務局よりナンバーカード引換証を送付

②東京マラソン EXPO2017(2017年2月23日~25日予定)開催期間中にナンバーカードを各自受け取る。

※大会当日の受付は行わない。

2016 オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第56回実業団・学生対抗陸上競技大会
学生代表選手選考要項

1. 大会名 2016 オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第56回実業団・学生対抗陸上競技大会
2. 期 日 2016年7月23日(土)
3. 会 場 ShonanBMW スタジアム平塚
4. 主 催 一般社団法人日本実業団陸上競技連合、公益社団法人日本学生陸上競技連合
5. 後 援 厚生労働省(予定)、スポーツ庁(予定)、日本陸上競技連盟 他
6. 編成方針
 - ・学生トップレベルの競技力を有する競技者であり、実業団チームと互角に戦えるチームを編成する。
 - ・将来、ユニバーシアード大会、オリンピック大会を目指すなど、国際的にも活躍が期待される競技者で編成する。
7. 選考競技会
 - ①地区インターカレッジ
 - ②2016日本学生陸上競技個人選手権大会
8. 選考について 2016年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会员のうち、上記選考競技会において、各個人種目記録の上位から出場を希望するもの3名を選考。
9. 競技種目

男子10種目
100m、400m、1500m、110mH、400mH、100m+200m+300m+400mR
棒高跳、走幅跳、円盤投、やり投

女子10種目
100m、400m、1500m、100mH、400mH、100m+200m+300m+400mR
走高跳、三段跳、砲丸投、ハンマー投
10. 表 彰
 - ・表彰は総合並びに男女各優勝チームと個人において優秀な成績を収めた競技者に下記の賞を授与する。
 - ・個人種目の表彰は第3位までとし、1位10万円、2位3万円、3位2万円の金品を与える予定。また、日本記録、日本学生記録、大会新記録を樹立した者には別の副賞を与える。

<p>【団体】</p> <p>総合優勝チーム：秩父宮賜杯</p> <p>総合優勝チーム：内閣総理大臣杯(予定)</p> <p>男子優勝チーム：文部科学大臣杯(予定)</p> <p>女子優勝チーム：厚生労働大臣杯(予定)</p>	<p>【個人】</p> <p>最優秀選手賞(男子)：学生連合会長杯</p> <p>最優秀選手賞(女子)：実業団連合会長杯</p> <p>敢闘賞(男女)：平塚市長杯</p> <p>最優秀新人賞(男女)：河野一郎杯</p>
---	---
11. 旅費・宿泊費 旅費及び宿泊費は本部負担とする。※詳細は、大会要項に記載
12. その他 実業団チームの合意があればオープン参加を認める場合がある。(但し、旅費・宿泊費は自己負担)

- 1 . 主 催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 2 . 期 日 平成 29 年 3 月 19 日(日)
- 3 . コ ー ス まつえレディースハーフマラソンコース
- 4 . 競技種目 女子ハーフマラソン
- 5 . 参加資格 2016 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員
- 6 . 競技規則 2016 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
- 7 . 参 加 料 1) 1 名につき 2,000 円
2) 参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
3) 10. 選手招待に該当する競技者については、参加料を徴収しない。
- 8 . 申込方法 1) 参加大学は配布された参加申込フォームに必要事項を入力し、申込期日（各地区学生陸上競技連盟が別に定める）までに各地区学生陸上競技連盟へ申し込むこと。
また、参加料は申し込みの際に納入すること。
2) 地区学生陸上競技連盟は参加大学の書類を取りまとめ、2017 年●月●日(●)15 時 00 分までに日本学生陸上競技連合に申し込むこと。
- 9 . 表 彰 第 1 位から第 3 位までの入賞者には賞状及びメダルを、第 4 位から第 8 位までの入賞者には賞状を贈与する。
10. 選手招待 以下の 1)、2)、3) または 4) の条件を満たした競技者については、大会出場にかかわる費用の一部をまつえレディースハーフマラソン実行委員会が負担する。但し、指定宿舎に宿泊しない場合、宿泊費は自己負担となる。
1) 基準記録 A 突破者：交通費及び宿泊費（前日 1 泊）
2) 地区学連推薦競技者（各地区学連 2 名以内）：交通費及び宿泊費（前日 1 泊）
3) **日本学連推薦競技者（5 名以内）：交通費及び宿泊費（前日 1 泊）**
4) 2) 及び 3) に該当しない競技者で、基準記録 B を突破した者：宿泊費（前日 1 泊）
- | 種目 | 基準記録 A | 基準記録 B | 記録有効期間 |
|---------|--------------------|----------------|----------------------------------|
| ハーフマラソン | 1 時間 16 分 00 秒 | 1 時間 19 分 00 秒 | 公認記録であれば
時期は問わない |
| 10000m | 34 分 20 秒 0 | 35 分 30 秒 0 | 2016 年 1 月 1 日から
2017 年申込期限まで |
| 5000m | 16 分 30 秒 0 | 16 分 50 秒 0 | 2016 年 1 月 1 日から
2017 年申込期限まで |
11. その他 1) 本大会において公認される種目は、10km、15km、20km 及びハーフマラソンである。（予定）
2) 本大会は松江市、他が主催する「まつえレディースハーフマラソン」と併催される。
宿泊斡旋希望の有無などについては、「宿泊等申込書」に記入し、参加申込の際に併せて提出すること。【指定及び斡旋宿舎：松江ニューアーバンホテル（予定）】
3) 競技中に発生した傷害・疾病等についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2016 年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
4) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
5) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者及び主催者が承認した第三者が、大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

公益社団法人日本学生陸上競技連合

第7回定時社員総会 議事録

1. 開催された日時

平成28年6月4日(土) 14時00分から14時54分まで

2. 開催された場所

TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 8階会議室

3. 正会員総数及び定足数

現在数 135名、定足数 68名

4. 出席正会員数

117名(本人出席 51名、委任出席 66名)

5. 議題

協議事項

第1号議案「平成27年度(第4期)事業・決算報告(案)の承認について」 (資料)

第2号議案「理事の任期満了に伴う改選に関する件」 (資料)

第3号議案「監事の任期満了に伴う改選に関する件」 (資料)

報告事項

①公1

・平成28年度主催競技会について

②公2

・台湾国際陸上選手権大会の結果について
・香港インターシティー大会派遣について
・RUNasONE-TokyoMarathon2017 準エリートについて

③公3

・陸上競技研究の発行について(105号~108号)

④その他

・普通会员の入会について
・平成28年度委員会について

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

定款第16条に基づき、関岡康雄会長が議長となり、本会議の開会を宣した。

議事録署名人は、定款第20条に基づき、関岡康雄会長並びに、出席した正会員のうちから議長が指名した鎌倉光男会員及び長野史尚会員となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

協議事項

第1号議案「平成27年度(第4期)事業・決算報告(案)の承認について」 (資料)

永井純専務理事から、資料に基づき平成27年度(第4期)事業・決算報告(案)の承認についての提案があった。

提案の際に、永井純専務理事及び大西清司事務局長から、次の説明があった。

(事業報告について)

平成27年度に事業計画をした内容について、滞りなく遂行することができた。

(正味財産増減計算書について)

当期経常増減額は黒字であった。「受取会費」の増加については、普通会员数が大幅に増加したこと、並びに、内閣府の指摘により陸上競技研究誌受取会費を受取会費の勘定科目に算入したことによる。「受取協賛金」の減少及び「受取負担金」の増加については、全日本大学駅伝・全日本大学女子駅伝における朝日新聞社・読売新聞社に拠出していただいている金額を、受取協賛金から受取負担金に勘定科目変更を行ったことによる。「受取広告料」の増加については、大阪で開催した日本ICにおいて多くの広告料収入があったことによる。「旅費・交通費」の増加については、日本ICを関西で開催したこと、ユニバーシアード開催年であったこと、並びに世界大学クロスカントリー選手権大会への派遣を日本学連経費負担により行ったことによる。「印刷製本費」の減少については、平成26年度までは陸上競技研究の経常費用を印刷製本費で一括計上していたところ、平成27年度には日本スポーツ振興センターの経理に合わせてその他の勘定科目に振り分けたことによる。「賃借料」の増加については、日本ICの競技場使用料が増加したことによる。「諸謝金」の増加については、ユニバーシアードに役員を派遣したことによる。「委託費」の増加は、日本ICにおける映像関係の委託、並びに陸上競技研究における勘定科目の振り分け変更による。「支払負担金」の増加は、日本陸連のデータ

バンク関係費用を雑費から支払負担金に勘定科目変更を行ったことによる。

(貸借対照表について)

特定資産につき、「ニューカレドニア遠征積立資産」については、ニューカレドニア国際マラソンへの派遣を取りやめた関係上、「海外ロードレース遠征積立資産」への振替を行った。世界大学クロスカントリー選手権大会については、今後日本学連の費用負担で派遣することとなったことから、特定資産として「世界大学クロスカントリー派遣積立資産」を創設した。

(正味財産増減計算書内訳表について)

公益目的事業における当期経常増減額は赤字であり、公益法人の運営としては適正であったと認識している。

続いて、山本俊樹監事から、監査の結果、事業報告において法令・定款に違反する事項並びに不当な事実は存在しなかった旨、また、計算書類及び付属明細書並びに財産目録においても法令・定款に違反する事項並びに不当な事実は存在しなかった旨の報告があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

第2号議案「理事の任期満了に伴う改選に関する件」

関岡康雄会長から、理事の任期満了に伴う改選に関して、資料に基づき平成28年度・29年度理事候補者の提案があった。

提案のあった候補者について1名ずつ審議した結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

第3号議案「監事の任期満了に伴う改選に関する件」

関岡康雄会長から、監事の任期満了に伴う改選に関して、資料に基づき平成28年度・29年度監事候補者の提案があった。

提案のあった候補者について1名ずつ審議した結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

なお、議決後に、会長以下の役職については新たに選出された理事の出席により開催される理事会において決定される旨の補足説明があった。

報告事項

①公1

・平成28年度主催競技会について(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。報告の際に次の説明があった。

日本ICについては、平成29年にタイペイで開催される第29回ユニバーシアード競技大会の日本代表選手選考参考大会として位置付ける。各駅伝大会においては、コース並びに各地区学連参加枠の見直し作業を進めているところである。日本学生ハーフマラソン選手権・日本学生女子ハーフマラソン選手権・日本学生20km競歩選手権は、ユニバーシアードの日本代表選手選考競技会とする。

②公2

- ・台湾国際陸上選手権大会の結果について(資料)
永井純専務理事から、資料に基づき、派遣結果の報告があった。
- ・香港インターシティー大会派遣について(資料)
永井純専務理事から、資料に基づき、派遣予定の報告があった。
- ・RUNasONE-TokyoMarathon2017準エリートについて
永井純専務理事から、資料に基づき、制度の趣旨等について報告があった。

③公3

- ・陸上競技研究の発行について(105号~108号)
永井純専務理事から、平成28年度には105号から108号までを発行する予定である旨の報告があった。

④その他

- ・普通会員の入会について
永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。
- ・平成28年度委員会について
永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。報告に際し、以下の説明があった。
企画委員会については、理事会において新理事の役職が決定した後に委員が決定される予定である。強化委員会については、強化における縦・横の連携を強化することを目的として委員数を増やしたところである。また、常設の委員会ではないが、実業団・日本陸連と連携しながら学生の就職について支援していく「就職支援プロジェクト」を立ち上げている。
- ・平成28年熊本地震に対する義援金拠出について
永井純専務理事から、平成28年熊本地震の発災に伴い、熊本県及び熊本市に、日本学連から3万円ずつ義援金を拠出した旨の報告があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時54分、議長は閉会を宣し、解散した。なお、閉会に際し、平成27年度をもって役員を退任する阿保雅行常務理事・金子今朝秋常務理事・黒岩重幸監事に対し、関岡康雄会長から感謝状が贈呈された。また、大西

清司事務局長から、同じく役員を退任する理事のうち、欠席の横川和幸理事・永井立子理事・有吉正博理事・杉田正明理事についても、日本学連から感謝状を贈呈する予定である旨、報告があった。

資料

2015年度(平成27年度)事業報告

(1) 公1〈競技会〉

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2015日本学生陸上競技個人選手権大会	2015年 6月12日(金)～14日(日)	Shonan BMW スタジアム平塚	男子18 女子18	102校…659名 97校…596名	大会新(5人) 大会タイ(5人) スポーツ振興基金助成金事業
2	天皇賜盃第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会	2015年 9月11日(金)～13日(日)	ヤンマースタジアム長居/ ヤンマーフィールド長居	男子22 女子22	122校…1067名 105校…824名	男子優勝校 日大(87点) 女子優勝校 立命館大(67点) 大会新(2名) スポーツ振興基金助成金事業
3	(2015オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯第55回実業団・ 学生対抗陸上競技大会	2015年7月25日(土)	平塚市 Shinan BMW スタジアム平塚	男子10 女子9	54名 (オープン2名) 48名 (オープン1名)	実業団202点 男子112点 女子85点 学生172点 男子85点 女子87点 ※総合優勝チームには秩父宮賜杯 内閣総理大臣杯 男子優勝チームには文部科学大臣杯 女子優勝チームには厚生労働大臣杯を授与
4	第27回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2015年 10月12日(月・祝)	出雲市45.1km 6区間		国内…20チーム 海外…1チーム	優勝 青学大 2時間09分05秒 2位 山梨学院大 2時間09分43秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、文部科学大臣杯を授与
5	第33回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2015年10月25日(日)	仙台市38.0km 6区間		国内・25校 +1チーム (東北選抜)	優勝 立命館大 2時間02分52秒(大会新) 2位 大東文化大 2時間05分40秒 ※優勝チームには文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯第47回 全日本大学駅伝対校選手権大会	2015年11月1日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+2チーム (東海選抜/全日本大学選抜)	優勝 東洋大 5時間13分04秒(初優勝) 2位 青山学院大 5時間14分08秒
7	2015全日本大学女子選抜駅伝競走	2015年12月30日(水)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…20チーム +(静岡県学生選抜)	優勝 立命館大 2時間21分50秒 2位 名城大 2時間25分04秒 ※優勝チームには文部科学大臣杯を授与
8	第19回 日本学生ハーフマラソン選手権大会	2016年3月6日(日)	立川市		1023名	優勝 林 竜之介(東海大) 1時間03分07秒
9	第10回日本学生20km競歩選手権大会	2016年3月20日(日)	能美市		男子…64名 女子…17名	男子優勝 松永 大介(東洋大) 1時間18分53秒 女子優勝 五藤 怜奈(中部学院大) 1時間31分00秒
10	第19回 日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	2016年3月20日(日)	松江市		62名	優勝 緒方美咲(松山大) 1時間11分50秒
11	2015年日本学生記録年鑑の発行	2016年3月31日発行			1000部発行	

(2) 公2〈育成〉

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	2015日本学生陸上競技個人選手権大会	2015年 6月12日(金)～14日(日)	Shonan BMW スタジアム平塚	チャイニーズタイペイ(TPE)の学生が参加(国際交流)
2	秩父宮賜杯 第68回西日本学生陸上競技対校選手権大会 第37回北日本学生陸上競技対校選手権大会	6月5日(金)～7日(日) 8月8日(土)～9日(日)	岩手県営運動公園 岐阜メモリアルセンター	競技者育成を目的とし、補助金として北日本インカレに50万円、西日本インカレに80万円
3	2015香港インターンシップ大会	2015年 6月27日(土)～28日(日)	Tseung Kwan O sports Ground	選手4名役員1名 男子3名(渡邊/東海大、島田/青山学大、吉田/東海大) 女子1名(鈴木/至学館大) 役員:遠藤/青山学大 ※日本陸連U23の予算にて実施
4	第28回ユニバーシアード競技大会(2015/光州) 日本代表選手・役員を選考	2015年 7月3日(日)～14日(金)	韓国・光州市	選手32名(男子23名、女子9名) 役員14名(金メダル4個、銀メダル3個、銅メダル5個、入賞13) 国別対抗順位2位(1位はロシア) ※JOCによる派遣
5	学生審判員研修会(2回)	2015年8月9日(日) 8月29日(土)～30日(日)	大阪市/長居	スターター、出発係、跳躍審判員、投てき審判員、監察員
6	X-RUN 2016 兼世界大学クロスカントリー代表選手選考競技会	2016年2月14日(日)	千葉市 男子12km, 女子6km	住吉秀昭(国士館大) 西山雄介(駒澤大), 上田健太(山梨学院大), 井上弘也(上武大), 塩尻和也(順天堂大), 竹下凱(帝京大), 出水田真紀(立教大), 細田あい(日本大), 清水萌衣乃(東京農大), 菅野七虹(立命大), 上原明修美(松山大), 玉城かんなん(名城大)以上12名選考
7	2016クロカン日本選手権(日本学連共催)	2016年2月27日(土)	福岡市 男子12km, 女子8km	男子最高 神野大地(青山学院大) 36分02秒(日本選手権2位) 学生1位 連合杯獲得 女子最高 清水萌衣乃(東京農大) 27分20秒(日本選手権3位) 学生1位 連合杯獲得
8	第20回世界大学クロスカントリー選手権大会	2016年3月12日(土)	イタリア/カッシーノ市 男子10.7km 女子6.2km	日本人最高:5位/塩尻和也(順天堂大) 33分56秒 2位/清水萌衣乃(東京農大) 22分00秒 男子団体:銀メダル 女子団体金メダル
9	日本学生陸上フォーラム2016 (第61回指導者会議)	2016年2月28日(土)	中央大学駿河台記念館	基調講演「学生連合と実業団連合の相互協力」で世界で戦うことを目指す高い志を持った学生アスリートの受け皿作り」(実業団陸上連合会長/西川晃一郎) パネルディスカッション: 麻場 一徳、西川晃一郎、岡内 伸二、磯 繁雄、伊東 浩司 コーディネーター/山本 浩
10	巡回指導	2016年 2月26日(金)～28日(日)	倉敷運動公園 陸上競技場	中国四国学連選抜合宿に、森長コーチ(跳躍)1名派遣
11	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
12	ドーピング・コントロール・テスト	4回	各地	競技会検査を実施(日本学生個人、日本IC、実業団・学生対抗、杜の都駅伝)
13	東京マラソン2016準エリートへの選手推薦		東京	2016年2月28日の東京マラソンに2015年立川ハーフマラソン(学生選手権)成績上位者を10名推薦
14	2016第16回仁川国際ハーフマラソン	2016年3月27日(日)	韓国-仁川	男子2名、コーチ1名 招待による派遣 廣田 雄希:1:03'46(第4位) 林 竜之介:1:03'59(第5位) 2名とも東海大 役員: 両角 速

(3) 公3〈調査研究〉

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	2015年日本陸上競技学会共催	2015年 11月28日(土)～29日(日)	日本女子体育大学	第14回大会
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年4回 101号～104号		『陸上競技研究』(ISSN 0919-9918) ※平成27年度スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門〈組織力管理〉

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	年6回	第15回(5月23日) 第16回(6月7日) 第17回(9月10日) 第18回(書面決議) 第19回(12月12日) 第20回(3月5日)
2	定時社員総会の開催	年1回	第6回(6月7日)
3	会員の入会受付	2015年度	名誉会員45名 正会員134名 普通会員(学生)20,090名 (男子15,270名 女子4,820名) ※2014年度 普通会員(学生)19,459名 (男子14,741名 女子4,718名)
4	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2015年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 (384競技会) 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請 (384競技会)
5	会報の刊行	3回	各回 1,000部(名誉会員、正会員、役員、地区学連加盟校に配布)
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	平成27年学生役員会議	2015年12月12日(土)	参加対象：各地区学連幹部役員
8	第41回学生幹部役員研修会	2016年 3月3日(木)～3月5日(土)	参加対象：平成28年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載

貸借対照表

平成28年3月31日現在
公益社団法人日本学生陸上競技連合

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	87,806,679	86,326,616	1,480,063
未収金	2,770,710	2,341,340	429,370
仮払金	1,326,350	180,582	1,145,768
流動資産合計	91,903,739	88,848,538	3,055,201
2. 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	25,000,000	25,000,000	0
秩父宮妃記念基金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	35,000,000	35,000,000	0
(2)特定資産			
退職給付引当資産	3,200,000	2,900,000	300,000
賞与引当資産	867,000	867,000	0
ユニバーシアド派遣事業積立資産	8,000,000	8,000,000	0
国際交流引当資産	8,000,000	8,000,000	0
創立90周年事業積立資産	2,700,000	2,300,000	400,000
日本インカレ90回記念大会積立資産	1,600,000	1,300,000	300,000
ニューカレドニア遠征積立資産	0	2,000,000	△ 2,000,000
競技会事業引当資産	20,000,000	20,000,000	0
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	1,000,000	1,000,000	0
海外ロードレース遠征積立資産	1,000,000	0	1,000,000
海外ロードレース遠征積立資産	3,000,000	0	3,000,000
特定資産合計	49,367,000	46,367,000	3,000,000
(3)その他固定資産			
電話加入権	56,000	56,000	0
その他固定資産合計	56,000	56,000	0
固定資産合計	84,423,000	81,423,000	3,000,000
資産合計	176,326,739	170,271,538	6,055,201
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	678,323	835,722	△ 157,399
預り金	28,847,716	27,407,383	1,440,333
賞与引当金	867,000	867,000	0
流動負債合計	30,393,039	29,110,105	1,282,934
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,200,000	2,900,000	300,000
固定負債合計	3,200,000	2,900,000	300,000
負債合計	33,593,039	32,010,105	1,582,934
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	10,000,000	10,000,000	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	132,733,700	128,261,433	4,472,267
(うち基本財産への充当額)	25,000,000	25,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	45,167,000	42,467,000	2,700,000
正味財産合計	142,733,700	138,261,433	4,472,267
負債及び正味財産合計	176,326,739	170,271,538	6,055,201

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
公益社団法人日本学生陸上競技連合

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	19,035	42,054	△ 23,019
基本財産受取利息	19,035	42,054	△ 23,019
特定資産運用益	3,635	20,057	△ 16,422
特定資産受取利息	3,635	20,057	△ 16,422
受取会費	39,186,200	36,766,600	2,419,600
正会員受取会費	670,000	670,000	0
普通会员受取会費	36,178,200	35,076,600	1,101,600
賛助会員受取会費	1,030,000	1,020,000	10,000
陸上競技研究誌受取会費	1,308,000	0	1,308,000
事業収益	66,452,200	64,544,600	1,907,600
受取協賛金	27,680,000	30,660,000	△ 2,980,000
受取放映権料	17,280,000	17,280,000	0
受取参加料	6,917,000	6,235,000	682,000
受取広告料	4,276,800	1,544,400	2,732,400
入場料等売上	10,298,400	8,825,200	1,473,200
受取補助金等	7,653,000	5,209,000	2,444,000
受取助成金	7,403,000	4,959,000	2,444,000
受取補助金	250,000	250,000	0
受取負担金	11,231,000	5,977,296	5,253,704
受取負担金	11,231,000	5,977,296	5,253,704
雑収益	123,767	109,396	14,371
受取利息	12,325	10,706	1,619
雑収益	111,442	98,690	12,752
経常収益計	124,668,837	112,669,003	11,999,834
(2) 経常費用			
事業費	113,090,006	93,797,562	19,292,444
給料手当	7,149,750	7,081,500	68,250
臨時雇賃金	159,975	0	159,975
退職給付費用	225,000	225,000	0
賞与引当金繰入額	650,250	650,250	0
福利厚生費	1,289,143	1,176,731	112,412
会議費	3,974,731	3,258,344	716,387
旅費交通費	41,152,445	31,398,925	9,753,520
通信運搬費	2,169,750	1,179,593	990,157
消耗品費	3,117,015	3,532,922	△ 415,907
備品費	151,212	127,827	23,385
印刷製本費	8,233,730	12,066,787	△ 3,833,057
光熱水料費	99,863	103,151	△ 3,288
食糧費	3,009,802	3,434,028	△ 424,226
賃借料	10,616,843	6,712,385	3,904,458
リース料	529,200	496,944	32,256
諸謝金	1,498,141	480,000	1,018,141
表彰費	1,439,825	1,033,938	405,887
渉外費	142,430	96,466	45,964
委託費	7,993,575	3,327,936	4,665,639
租税公課	1,493,695	1,038,625	455,070
支払負担金	17,110,180	13,896,000	3,214,180
雑費	883,451	2,480,210	△ 1,596,759

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	7,106,564	6,497,869	608,695
給料手当	2,383,250	2,360,500	22,750
臨時雇賃金	53,325	0	53,325
退職給付費用	75,000	75,000	0
賞与引当金繰入額	216,750	216,750	0
福利厚生費	429,714	392,241	37,473
会議費	299,955	347,598	△ 47,643
旅費交通費	289,558	208,169	81,389
通信運搬費	468,404	455,342	13,062
消耗品費	6,151	40,901	△ 34,750
備品費	92,677	78,345	14,332
印刷製本費	217,817	231,977	△ 14,160
光熱水料費	99,865	103,154	△ 3,289
賃借料	1,362,432	1,112,535	249,897
リース料	132,300	124,236	8,064
渉外費	113,451	89,627	23,824
委託費	65,609	57,055	8,554
租税公課	640,155	445,125	195,030
支払負担金	120,126	0	120,126
雑費	40,025	159,314	△ 119,289
経常費用計	120,196,570	100,295,431	19,901,139
評価損益等調整前当期経常増減額	4,472,267	12,373,572	△ 7,901,305
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,472,267	12,373,572	△ 7,901,305
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,472,267	12,373,572	△ 7,901,305
一般正味財産期首残高	128,261,433	115,887,861	12,373,572
一般正味財産期末残高	132,733,700	128,261,433	4,472,267
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	142,733,700	138,261,433	4,472,267

財産目録

平成27年3月31日現在
公益社団法人日本学生陸上競技連合

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	213,859
預金	普通預金		60,411,896
	三井住友銀行渋谷支店	運転資金として	44,906,140
	三井住友銀行渋谷支店8900029		10,159,900
	三井住友銀行渋谷支店8976649		3,311,491
	三井住友銀行渋谷支店9065238		1,934,365
	三井住友銀行渋谷支店9065249		100,000
	定期預金		23,000,000
	三井住友銀行渋谷支店		23,000,000
	振替貯金		4,180,924
	渋谷千駄ヶ谷郵便局	運転資金として	4,180,924
			2,770,710
未収金			1,326,350
仮払金			
流動資産合計			91,903,739
(固定資産)			
基本財産			35,000,000
	定期預金		25,000,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932	公益目的保有財産である	12,500,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932	法人運営財源として使用	12,500,000
	秩父宮妃記念基金	公益目的保有財産である	10,000,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932		10,000,000
特定資産			49,367,000
	退職給付引当資産		3,200,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932		3,200,000
	賞与引当資産		0
			867,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		867,000
	ユニバーシアード派遣事業積立資産		8,000,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		8,000,000
	国際交流引当資産		8,000,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932		8,000,000
	創立90周年事業積立資産		2,700,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		2,700,000
	日本インカレ90回記念大会積立資産		1,600,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		1,600,000
	競技会事業引当資産		20,000,000
	三井住友銀行渋谷定期預金20932		20,000,000
	日本インカレ地方開催準備積立資産		1,000,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		1,000,000
	世界大学クロスカントリー遠征積立資産		1,000,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		1,000,000
	海外ロードレース遠征積立資産		3,000,000
	三井住友銀行渋谷普通9065249		3,000,000
その他固定資産			56,000
	電話加入権	公益目的事業に供している	39,200
	電話加入権	法人運営に供している	16,800
固定資産合計			84,423,000
資産合計			176,326,739
(流動負債)			
	未払金		678,323
	預り金		28,847,716
	賞与引当金		867,000
流動負債合計			30,393,039
(固定負債)			
	退職給与引当金		3,200,000
固定負債合計			3,200,000
負債合計			33,593,039
正味財産			142,733,700

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記
該当事項はありません。
2. 重要な会計方針
 - (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券
時価のないもの……移動平均法による原価法によっております。
 - (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
該当事項はありません。
 - (3) 固定資産の減価償却の方法
該当事項はありません。
 - (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
賞与引当金……従業員に対する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち、当期に負担すべき額を計上しております。
 - (5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
キャッシュフロー計算書を作成する必要がないため該当事項はありません。
 - (6) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっております。
3. 会計方針の変更
該当事項はありません。
4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

単位：円

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	25,000,000	0	0	25,000,000
秩父宮記念基金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	35,000,000	0	0	35,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	2,900,000	300,000	0	3,200,000
賞与引当資産	867,000	867,000	867,000	867,000
ユニバーシアード派遣事業積立資産	8,000,000	4,000,000	4,000,000	8,000,000
国際交流引当資産	8,000,000	0	0	8,000,000
創立90周年事業積立資産	2,300,000	400,000	0	2,700,000
日本インカレ90回記念大会積立資産	1,300,000	300,000	0	1,600,000
ニューカレドニア遠征積立資産	2,000,000	0	2,000,000	0
海外ロードレース遠征積立資産	0	3,000,000	0	3,000,000
競技会事業引当資産	20,000,000	0	0	20,000,000
日本インカレ地方開催準備積立資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	0	1,000,000	0	1,000,000
小計	46,367,000	10,867,000	7,867,000	49,367,000
合計	81,367,000	10,867,000	7,867,000	84,367,000

5. 基本財産及び特定財産の財源等の内訳

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	25,000,000	0	25,000,000	0
秩父宮記念基金	10,000,000	10,000,000	0	0
小計	35,000,000	10,000,000	25,000,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	3,200,000	0	3,200,000	3,200,000
賞与引当資産	867,000	0	867,000	867,000
ユニバーシアード派遣事業積立資産	8,000,000	0	8,000,000	0
国際交流引当資産	8,000,000	0	8,000,000	0
創立90周年事業積立資産	2,700,000	0	2,700,000	0
日本インカレ90回記念大会積立資産	1,600,000	0	1,600,000	0
海外ロードレース遠征積立資産	3,000,000	0	3,000,000	0
競技会事業引当資産	20,000,000	0	20,000,000	0
日本インカレ地方開催準備積立資産	1,000,000	0	1,000,000	0
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	1,000,000	0	1,000,000	0
小計	49,367,000	0	49,367,000	4,067,000
合計	84,367,000	10,000,000	74,367,000	4,067,000

6. 担保に供している資産
該当事項はありません。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
電話加入権	56,000	0	56,000
合計	56,000	0	56,000

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	2,770,710	0	2,770,710
合計	2,770,710	0	2,770,710

9. 保証債務

該当事項はありません。

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当事項はありません。

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
平成27年度事業運営補助金	公益財団法人	0	100,000	100,000	0	一般正味財産
第61回指導者会議補助金	日本陸上競技連盟	0	150,000	150,000	0	一般正味財産
2015日本学生陸上競技個人選手権助成金	独立行政法人	0	2,000,000	2,000,000	0	一般正味財産
第84回日本学生陸上競技対校選手権助成金	日本スポーツ振興センター	0	3,000,000	3,000,000	0	一般正味財産
陸上競技研究誌発行くじ助成金		0	2,403,000	2,403,000	0	一般正味財産
合計		0	7,653,000	7,653,000	0	

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高

該当事項はありません。

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当事項はありません。

14. 関連当事者との取引の内容

該当事項はありません。

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

該当事項はありません。

16. 重要な後発事象

該当事項はありません。

17. その他

該当事項はありません。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細については、財務諸表の注記に記載しております。

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,900,000	300,000	0	0	3,200,000
賞与引当金	867,000	867,000	867,000	0	867,000
合計	3,767,000	1,167,000	0	0	4,067,000

公益社団法人日本学生陸上競技連合

第22回理事会 議事録

1. 開催された日時

平成28年6月4日(土) 15時12分から15時52分まで

2. 開催された場所

TKP市ヶ谷カンファレンスセンター7階
カンファレンスルーム7B

3. 理事総数及び定足数

現在数 22名、定足数 12名

4. 出席理事数

22名

(出席)青葉 昌幸、浅見美弥子、伊東 浩司、伊東 輝雄、
岩元 慎一、植田 恭史、蒲原 一之、神尾 正俊、
栗山 佳也、黒須 雅弘、澤木 啓祐、三條 俊彦、
杉山 喜一、関岡 康雄、関根 春幸、永井 純、
中島 剛、日隈 広至、藤井 邦夫、外園 隆、
山下 誠、和田 正信

(監事出席)久松 洋一、山本 俊樹

5. 議題

協議事項

第1号議案「会長、副会長、専務理事、常務理事および代表理事、業務執行理事の選任について」

第2号議案「その他」

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認

会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長の選任

永井純理事から、役員候補選出会議の決定に基づき、関岡康雄理事を会長・代表理事として選任することについて提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決し、関岡康雄会長が議長となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

協議事項

第1号議案「会長、副会長、専務理事、常務理事および代表理事、業務執行理事の選任について」

関岡康雄会長から、青葉昌幸理事を副会長・代表

理事に、澤木啓祐理事及び神尾正俊理事を副会長・業務執行理事に、永井純理事を専務理事・業務執行理事に、栗山佳也理事及び関根春幸理事を常務理事・業務執行理事に選任することについて提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案「その他」

・実業団・学生対抗について

永井純専務理事から、東京オリンピックに向けた強化の観点から、種目別表彰で贈呈する賞金または商品を増額すること、最優秀新人賞の選考方法について変更を検討することについて提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

・平成28年度理事派遣依頼(案)について

永井純専務理事から、資料に基づき派遣計画の承認について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

・平成28年度・29年度委員会について (資料)

永井純専務理事から、資料に基づき企画委員会の委員の承認について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

審議に際し、以下の質疑応答があった。

(和田正信理事) 地区学連ヘッドコーチ部会について、第21回理事会の決議の通り、強化委員会内に位置づけられているという認識で良いか。

(永井純専務理事) そのような認識で相違ない。

(4)議事録署名人の確認

関岡康雄会長から、議事録署名人につき、定款第33条に基づき、関岡康雄会長及び青葉昌幸副会長、並びに久松洋一監事及び山本俊樹監事となる旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時52分、議長は閉会を宣し、解散した。

名誉会長	河野 洋平	保利 耕輔				
顧問	小坂 憲次	松本 正之				
参 与	阿保 雅行	安藤 好郎	石井 隆士	石澤 隆夫	岩壁 達男	
	大西 暁志	尾縣 貢	片峯 隆	金子今朝秋	木村 登	
	黒岩 重幸	永井 立子	藤田 幸雄	森本 葵	米谷 元捷	

会 長	※ 関岡 康雄					
副 会 長	※ 青葉 昌幸	* 澤木 啓祐	* 神尾 正俊			
専務理事	* 永井 純					
常務理事	* 栗山 佳也					
理 事	浅見美弥子	蒲原 一之	外園 隆	山下 誠		
	(北海道)	杉山 喜一				
	(東北)	藤井 邦夫				
	(関東)	植田 恭史	日隈 広至	中島 剛		
	(北信越)	三條 俊彦				
	(東海)	黒須 雅弘				
	(関西)	伊東 浩司	伊東 輝雄			
	(中国四国)	和田 正信				
	(九州)	岩元 慎一				

監 事	久松 洋一	山本 俊樹
	※ = 代表理事	* = 業務執行理事

企画委員会	永井 純 (委員長) 神尾 正俊 栗山 佳也	澤木 啓祐	関根 春幸	
総務委員会	障子 恵 (委員長) 岡田 晃 (副委員長) 秋葉 如美 石井 智也 川上 将平 河野 匠 田中ゆかり 徳留 正 藤崎 勇次 益田 雄次	高橋 早苗 (副委員長) 井筒 柴乃 小林 亨輔 長井 健 村上弥生子	稲毛 梨恵 小林 善太 野澤 正子 渡辺安沙子	緒方 信也 庄田 修司 板東 孝訓
強化委員会	栗山 佳也 (委員長) 伊東 輝雄 (副委員長) 片峯 隆 (副委員長) 山下 誠 (副委員長) 伊東 浩司 (部長) 磯 繁雄 安井 年文 伊東 輝雄 (部長) 鯉川なつえ 酒井 俊幸 米田 勝朗 山下 誠 今村 文男 (部長) 酒井 俊幸 植田 恭史 (部長) 片峯 隆 小林 史明 岡田 雅次 (部長) 大山下圭悟 高梨 雄太 松田 克彦 (部長) 眞鍋 芳明	植田 恭史 (副委員長)		
短距離・ハードル部		山崎 一彦	苅部 俊二	渡部 誠
中・長距離部		大後 栄治	十倉みゆき	中野 孝行
競歩部				
跳躍部				
投てき部		森長 正樹		
混成競技部		與名本 稔		
地区学連ヘッドコーチ部会	杉山 喜一 川本 和久 伊東 浩司 鶴崎 健一	植田 恭史 黒須 雅弘 岩元 慎一		三條 俊彦
競技委員会	関根 春幸 (委員長) 宮田 英明 (副委員長/競技運営部) 赤峰 俊彦 天ヶ瀬由貴 宿院 享 庄田 修司 羽田 雄一 益田 雄次	山田 峰生 (副委員長/審判育成部) 石井 公一 鎌倉 光男 関 隆史 竹村 義人 三浦 康二		清原那美花 長野 史尚
医事委員会	蒲原 一之 (委員長) 大山下圭悟 (副委員長) 蒲原 一之 (部長) 小川 健 金子 晴香 高梨 幹生 田中 健太 大山下圭悟 (部長) 加藤 基 武井 隼児 鎌田 浩史 (部長) 石井 智也 大木 亮子 山澤 文裕	鎌田 浩史 (副委員長)		
医事部		鎌田 浩史 後藤 由 船山 徹 割澤 高行		清水 如代
トレーナー部		眞鍋 芳明 森田 陽子		
アンチ・ドーピング部		蒲原 一之 栗山 佳也		諸岡 佳代
財務委員会	外園 隆 (委員長) 曾根 真人 徳留 正	宮田 英明		
国際委員会	吉村 篤司 (委員長) 苅部 俊二 鯉川なつえ	澤村 博	本田 陽	山下 誠
調査研究委員会	安井 年文 (委員長) 青木 和浩 青山 亜紀 金子 晴香 鯉川なつえ	青山 清英 杉田 正明	遠藤 俊典 眞鍋 芳明	大山下圭悟 和田 正信
指導者会議運営委員会	阿保 雅行 (委員長) 石井 朗生 障子 恵	永井 立子	船原 勝英	

(学識経験者：53名)

関岡 康雄	青葉 昌幸	神尾 正俊	澤木 啓祐	浅見美弥子	蒲原 一之
関根 春幸	永井 純	外園 隆	山下 誠	久松 洋一	山本 俊樹
岡田 晃	障子 恵	河野 匠	小林 善太	庄田 修司	徳留 正
長井 健	益田 雄次	高橋 早苗	田中ゆかり	渡辺安沙子	磯 繁雄
今村 文男	苅部 俊二	鯉川なつえ	十倉みゆき	安井 年文	米田 勝朗
渡部 誠	鎌倉 光男	宮田 英明	赤峰 俊彦	関 隆史	長野 史尚
羽田 雄一	三浦 康二	山田 峰生	大山卞圭悟	鎌田 浩史	小川 健
金子 晴香	曾根 真人	吉村 篤司	青木 和浩	青山 清英	眞鍋 芳明
阿保 雅行	石井 朗生	山之口 航	飯塚 啓子	蔵並 香	

(北海道学連：6名)

藤井 英嘉	米谷 元捷	安居院高志	杉山 喜一	畑 耕太郎	井川 雄人
-------	-------	-------	-------	-------	-------

(東北学連：7名)

藤井 邦夫	横川 和幸	長澤 光雄	川本 和久	櫛引 修平	飯田 夏生
須釜 泰弘					

(関東学連：23名)

有吉 正博	永井 立子	植田 恭史	日隈 広至	岩壁 達男	吉儀 宏
藤田 幸雄	廣島 雄三	木村 登	加藤 博夫	大西 暁志	須田 柳治
森本 葵	青山 利春	高岡 公	小山 裕三	木下 澄雄	大後 栄治
中島 剛	上田 誠仁	水上 俊太	伊藤 大悟	芹澤 柚紀	

(北信越学連：7名)

山崎 健	田中 秀一	丸山 敦夫	三條 俊彦	浦田 敦也	鈴木 豪
田中 健太					

(東海学連：9名)

安藤 好郎	杉田 正明	國枝 秀世	原田 憲一	黒須 雅弘	内田 智子
高橋 俊平	中山 結人	江口 京弥			

(関西学連：12名)

津野 洋	熊谷 匡昭	水瀬 安春	栗山 佳也	小野 吉永	伊東 浩司
津田 忠雄	伊東 輝雄	北井 敏雄	安邊 啓明	石田 大貴	堂野 起佐

(中国四国学連：9名)

東川 安雄	駒井 説夫	和田 正信	鶴崎 健一	岩田昌太郎	岩橋 邦彦
千葉 雄太	藤島 廉	大島 駿			

(九州学連：8名)

近藤 勲	中川 保敬	片峯 隆	岩元 慎一	三宅 翔太	宇野 麟之介
黒岩 真帆	柴田 颯馬				

東 隆夫	石村 善治	岩谷 忠雄	上田昌三郎	梅村 清弘	大村 良治
岡田 泰士	小口 正行	蔭山 靖夫	梶原 洋子	金森 勝也	椛澤 聖子
久保田康毅	桑原 美代	河野 洋平	紺野 哲郎	櫻井 孝次	佐々木秀幸
佐藤 良男	佐沼 洋	澤村 博	渋谷 鋭市	鈴木 博	藪 良雄
高田 和之	竹内 三郎	竹内 伸也	竹田 憲司	田中 淳浩	田中 良子
帖佐 寛章	綱分 憲明	外山 康臣	豊岡 示朗	中尾 隆行	浜松ヨシ江
伏見 士郎	星野 敦志	保利 耕輔	堀越 好夫	松本 正之	丸山吉五郎
宮口 尚義	安田 純三	安田 誠克			

公益社団法人日本学生陸上競技連合

第23回理事会 議事録

1. 開催された日時

平成28年9月1日(木) 17時00分から18時18分まで

2. 開催された場所

マロウドイン熊谷 飛翔

3. 理事総数及び定足数

現在数 22名、定足数 12

4. 出席理事数

19名

(出席) 関岡 康雄、青葉 昌幸、澤木 啓祐、神尾 正俊、永井 純、栗山 佳也、関根 春幸、浅見美弥子、伊東 浩司、伊東 輝雄、岩本 慎一、植田 泰史、黒須 雅弘、三條 俊彦、杉山 喜一、中島 剛、日隈 広至、藤井 邦夫、山下 誠

(欠席) 蒲原 一之、外園 隆、和田 正信

(監事出席) 山本 俊樹

5. 議題

協議事項

第1号議案「第29回ユニバーシアード(2017/台北)について」

第2号議案「普通会員入会について」

第3号議案「第29回出雲駅伝シード校、地区学連枠について」

第4号議案「第24回理事会開催日変更について」

第5号議案「常任幹事の承認について」

第6号議案「長距離ヨーロッパ競技会派遣について」

第7号議案「個人情報保護方針規程について」

第8号議案「その他」

報告事項

①会務の報告

②主催駅伝・ハーフマラソンについて

③日本陸連関連の報告

④その他

・大学名の略称について

6. 議事の経過及びその結果

(1)定足数の確認

会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

関岡康雄会長が議長となり、本会議の開会を宣し

た。議事録署名人は定款第33条に基づき、関岡康雄会長、青葉昌幸副会長、及び山本俊樹監事となった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

協議事項

第1号議案「第29回ユニバーシアード(2017/台北)について」

栗山佳也常務理事から、資料に基づき提案があった。

また、提案の際に前回の光州大会のものから派遣標準記録の変動があったこと、代表選手の選考方法については第24回理事会にて提案予定であること並びに記録の有効期間は平成28年(2016年)4月1日から平成29年(2017年)6月に開催予定の日本学生個人選手権大会最終日までとすることの説明があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

(澤木啓祐副会長) 男女の20km競歩の派遣標準記録について、見直すべきではないか。

(栗山佳也常務理事) 検討する。

審議の結果、提案内容のうち男女の競歩競技の派遣標準記録を再検討すること及び派遣標準記録については競歩競技のみ未定のまま早急に発表することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案「普通会員入会について」(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案「第29回出雲駅伝シード校、地区学連枠について」(資料)

山下誠理事から、別紙資料に基づき提案があった。

なお、本事項において、次の意見及び質疑応答があった。

(杉山喜一理事) 選抜チームの編成か単独校チームの編成かの判断はいつまでにすればよいか。

(永井専務理事) 大会要項の申し込み方法に記載される締切期日までとする。

(日隈広至理事) 選考会を開催しなければならないということではないという認識でよいか。

(永井専務理事) 選考方法については地区学連にお任せする。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案「第24回理事会開催日変更について」

(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案「常任幹事の承認について」(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案「長距離ヨーロッパ競技会派遣について」

(資料)

永井純専務理事及び山下誠理事から、資料に基づき提案があった。

また、提案の際に派遣選手は平成28年(2016年)9月4日に選考すること、派遣選手の承認は会長一任とすること、帯同する役員は2、3名を予定していること及び対象選手は各選考競技会の上位10名程度までを想定し対象をさらに広げることとはしないことの説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第7号議案「個人情報保護方針規程について」

永井純専務理事から、資料に基づき提案があった。

また、提案の際に個人情報保護管理者として永井純専務理事を、個人情報保護監査責任者として浅見美弥子理事を任命予定であることの説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第8号議案「その他」

・永井純専務理事から、今後の公益法人組織運営のことを考慮し、弁護士の方に何らかのポジションで関与していただきたいと考えている。日本学連役員の知人を2名程度予定しているが、今後の対応については、会長一任としたい。

・日本インカレにおける自然災害等、不可抗力によって一部種目が中止となった場合の判断時の取り扱いについては、実施できた種目のみで得点を集計する申し合わせとすることの提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

報告事項

①会務の報告(資料)

永井純専務理事から、資料に基づき報告があった。

②主催駅伝・ハーフマラソンについて

永井純専務理事から、主催の各駅伝大会及びハーフマラソン大会について次の報告があった。

- ・第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走
駐日米国大使の招聘についての話があったこと。
- ・第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
コース周辺の環境変化により、2年後からコースを変更予定であること。
- ・秩父宮賜杯第48回全日本大学駅伝対校選手権大会
第50回記念大会に向け、現行の各区間の距離変更や8区間制の見直し、その他大会を盛り上げるため検討していること及び全日本大学選抜チームを引き続き編成予定であること。
- ・2016全日本大学女子選抜駅伝競走
今回から資料のコースに基づき、競技会を実施すること。
- ・第20回日本学生ハーフマラソン選手権大会
欠場者がなるべく発生しないための方策について話があったこと。
- ・第11回日本学生20km競歩選手権大会
現行の日本陸上競技連盟との共催という関係について、単独の競技会として独立することも視野に入れ再検討していること及びユニバーシアードの代表選手内定について、ハーフマラソン同様に団体戦を意識して全体の派遣人員の状況により、3月に出すかどうか検討中であること。
- ・第20回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会
当分の間、松江市にて開催することになったこと。

③日本陸連関連の報告

大西事務局長から平成28年(2016年)5月24日に開催された第35回理事会及び平成28年(2016年)6月27日に開催された第36回理事会の会務に関する報告があった。

④大学名の略称について

永井純専務理事から、本連合主催競技会における大学名の略称については資料に基づき取り扱っていることの報告があった。各連盟独自の運用があることは承知しているが、現行の略称名については、整合性のこともあり、今後の修正については連絡を取り合っていきたい。

以上をもって議案の審議等を終了したので、18時18分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

平成28年度 日本学生陸上競技連合 会員について

正会員 134名 普通会员 20,514名 賛助会員 4名、1団体

【日本学生陸上競技連合 普通会员の各月変遷】

単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	402	640	6,639	497	1,580	2,971	1,236	980	14,945
4月	255	218	1,382	363	200	432	442	513	3,805
5月	43	43	179	77	165	207	117	150	981
6月	38	10	73	50	108	38	46	46	409
7月	9	1	270	11	23	25	17	29	385
8月									0
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
退会者	0	-1	0	0	-2	-4	0	-4	-11
合計	747	911	8,543	998	2,074	3,669	1,858	1,714	20,514

増員数 (9/1報告) 1,775名

【普通会员数の年度ごとの推移】

平成28年8月1日現在

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2016	747	911	8,543	998	2,074	3,669	1,858	1,714	20,514	424 ↑	2,636	4,300
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205	256 ↑		
2001	617	811	5,604	685	1,123	2,486	1,258	1,365	13,949	82 ↑		
2000	638	789	5,503	685	1,122	2,430	1,246	1,454	13,867	-65 ↓		
1999	642	798	5,496	706	1,134	2,442	1,254	1,460	13,932			

2016年度	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	593	154	747	42	3.6
東北	688	223	911	-32	4.4
関東	6,651	1,892	8,543	322	41.6
北信越	776	222	998	-23	4.9
東海	1,539	535	2,074	67	10.1
関西	2,637	1,032	3,669	122	17.9
中国四国	1,417	441	1,858	-46	9.1
九州	1,309	405	1,714	-28	8.4
全体	15,610	4,904	20,514	424	

2015年度	男子	女子	合計
北海道	567	138	705
東北	706	237	943
関東	6,423	1,798	8,221
北信越	784	237	1,021
東海	1,484	523	2,007
関西	2,523	1,024	3,547
中国四国	1,465	439	1,904
九州	1,318	424	1,742
全体	15,270	4,820	20,090

資料

■第24回理事会開催日変更について

現在：12月10日(土) ※平成28年3月5日理事会にて決定

↓ 変更

12月11日(日)

(当日の予定案)

12:30～14:30 学生役員会議

15:00～17:00 第24回理事会

17:00～18:30 卒業学生役員を送る会

場所：都内/未定

■平成28年度 学生役員 常任幹事の承認について

宮崎 芽衣(みやざき めい)

日本女子体育大学1年生

資料

■2016海外ロードレース派遣の選手選考について

今年度より11月に海外ロードレースへの選手派遣を行う予定です。これは、これまでのニューカレドニアハーフマラソン遠征に代わるユニバーシアード強化策の一環となるものです。

7月現在、大会側と交渉中ですが、11月にオランダで開催される15kmのロードレースに男女ともに最大5名を派遣する予定です。

○選考対象競技会○

- ・第19回日本学生ハーフマラソン選手権大会(2016年3月6日開催)
- ・第19回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(2016年3月20日開催)
- ・天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会
男女10000m(※5000mは選考対象とはならない)

○対象となる競技者○

- ・選考対象競技会の上位で大学3年生以下の者を対象とする。
(ユニバーシアード強化なので、ユニバーシアード選考対象者と限定する。)

2016 オランダ・ナイメーヘン/ヒルズ 15kmロードレース 選手団名簿 開催日：2018年11月20日(日)

NO.	役職	性別	氏名	所属
1	団長	男	澤木 啓祐	日本学連-副会長
2	監督	男	伊東 輝雄	日本学連-強化副委員長
3	コーチ	男	米田 勝朗	日本学連-強化委員
4	選手	男	鈴木 健吾	神奈川大学
5	選手	男	森田 歩希	青山学院大学
6	選手	男	中村 祐紀	青山学院大学
7	選手	男	富安 央	日本体育大学
8	選手	男	新迫 志希	早稲田大学
9	選手	女	緒方 美咲	松山大学
10	選手	女	赤坂よもぎ	名城大学
11	選手	女	棚池穂乃香	京都産業大学
12	選手	女	棟久 由貴	東京農業大学
13	選手	女	古谷 奏	松山大学

平成28年～ 月 日	行 事 (報告内容)
5月7日(土)	第21回理事会 於：中央大学駿河台記念館
5月13日(金)	第56回実業団・学生対抗陸上 事務局会議 於：日本学連事務所
5月17日(火)～21日(土)	台湾国際陸上 学生代表遠征 於：(台北市)
5月17日(火)	総務委員会 於：日本学連事務所
5月19日(木)	第28回出雲駅伝 事務局会議 於：日本学連事務所
5月25日(水)	実業団・学生 就職支援に関するミーティング 於：協和発酵キリン会議室
5月25日(水)	第86回日本インカレ(福井)事務局会議 於：日本学連事務所
5月25日(水)	2016個人選手権/番組編成会議 於：日本学連事務所
5月26日(木)	競技委員会 於：日本学連事務所
5月27日(金)	第34回全日本大学女子駅伝 実行委員会 於：仙台市役所
6月2日(木)	全日本大学駅伝 打ち合わせ 於：日本学連事務所
6月4日(土)	第7回定時社員総会 於：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
6月4日(土)	第22回理事会 於：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
6月7日(火)	第56回実業団・学生対抗陸上 実行委員会 於：渋谷フォーラムエイト
6月10日(金)～12日(日)	2016日本学生陸上個人選手権大会 於：平塚市
6月11日(土)	第2回指導者会議運営委員会
6月22日(水)	内閣府 公益目的支出計画実施報告書 提出
6月23日(木)～27日(月)	香港インターシティー 陸上大会 学生代表遠征 於：香港
6月23日(木)	富士山女子駅伝 実行委員会 於：静岡市/テレビ静岡
6月28日(火)	富士山女子駅伝 県警挨拶 於：静岡市
6月28日(火)	文部科学大臣顕彰(2015ユニバーシアード優勝関連) 於：八芳園
6月29日(水)	第85回日本IC 埼玉陸協打ち合わせ 於：日本学連事務所
6月30日(木)	日本陸連/実業団/学連/事務局長会議 於：日本陸連 事務局
7月2日(土)～3日(日)	後援事業視察(西日本インカレ) 於：京都市
7月2日(土)～3日(日)	後援事業視察(北日本インカレ) 於：札幌市
7月5日(火)	日本IC 熊谷陸上競技場/国際十王交通 打合せ 於：熊谷市
7月8日(金)	実業団・学生 就職支援に関するミーティング 於：日本学連事務所
7月18日(月)～19日(火)	第28回出雲駅伝実行委員会 於：出雲市
7月20日(水)	松江レディースハーフマラソン 実行委員会 於：松江市
7月23日(土)	第56回実業団・学生対抗陸上大会 於：平塚市
7月23日(土)	第3回指導者会議運営委員会 於：平塚市
7月28日(木)	小田原市 感謝状贈呈(実学対抗陸上) 於：小田原市
7月29日(金)	シチズン/全日本大学駅伝「協力」挨拶 於：田無
7月29日(金)	全日本大学駅伝 打ち合わせ 於：日本学連事務所
8月12日(金)	日本IC 報道担当者会議 於：日本学連事務所
8月17日(水)	日本IC 番組編成会議 於：日本学連事務所
8月18日(木)	競技委員会 於：日本学連事務所
8月19日(金)	富士山女子駅伝 事務局会議 於：日本学連事務所
8月19日(金)	企画委員会 於：日本学連事務所
8月22日(月)	日本IC 審判主任会議 於：上尾市
8月25日(木)	富士山女子駅伝 実行委員会 於：静岡市/テレビ静岡
8月26日(金)	全日本大学駅伝 運営会議 於：名古屋/朝日新聞
9月1日(木)	第23回理事会 於：熊谷市マロードイン会議室

【各地区学連出場枠の見直しについて】

以下の配分方法により、毎年各地区学連からの出場枠を決定する。

1. 基本枠（8）各地区学連には、基本枠として1枠ずつを配分する
2. 成績枠（12）前年度大会で1位～12位の大学の所属する地区学連の数を出場枠として配分する。
（注1）出場枠が1の学連においては、出場資格を「選抜チーム」または「単独校チームの」どちらかを選ぶことができる。
（注2）ひとつの地区学連の出場枠は最大で10（基本枠1＋成績枠9）とする。
成績枠が9を超えた場合は13位のチームの地区学連にその成績枠を譲ることとなる。
全日本大学選抜駅伝競走 各地区学連出場枠について（案）

例1 成績枠の配分の例

前回 第〇〇回大会結果			→	次回 第〇△回大会出場枠		
1	関東1大	関東		成績枠	関東1	
2	関東2大	関東			関東2	
3	関東3大	関東			関東3	
4	関東4大	関東			関東4	
5	関東5大	関東			関東5	
6	関西1大	関西			関東6	
7	関東6大	関東			関東7	
8	関東7大	関東			関東8	
9	関西2大	関西			関東9	
10	関東8大	関西		(関東超過枠1)		
11	関東9大	関東		関西1		
12	関東10大	関東		関西2		
13	九州1大	九州	九州1			

例2 第〇△回大会各地区学連出場枠について

地区	次回 第〇△回			前回 出場枠数
	次回出場枠数	基本枠	成績枠	
北海道	1	1		1
東北	1	1		1
関東	10	1	9	10
北信越	1	1		1
東海	1	1		1
関西	3	1	2	2
中四国	1	1		2
九州	2	1	1	2
合計	20	8	12	20

競技委員会の活動(前期)

競技委員長 関根春幸

日本学生個人陸上競技選手権大会、実業団対学生対抗陸上競技大会、天皇賜杯日本学生陸上競技対校選手権大会と大きな3つの大会を2016年前半で大きな問題もなく乗り切ることができました。神奈川陸上競技協会、神奈川県、平塚市、埼玉陸上競技協会、埼玉県、熊谷市をはじめ関係の皆様のご協力があり、このような大会運営ができましたことを改めて御礼申し上げます。それに加え、学生幹事をはじめ、学生諸君の大会に対する多大な協力も忘れることができません。この紙面を借りて御礼を申し上げます。

さて、大会を一つずつ振り返りたいと思います。

日本学生個人選手権大会では、ひとりひとりが自己ベストに挑戦する大会として位置づけられています。平塚競技場の利点を生かし、直線種目は風の向きを考えながら競技を行います。つまり常に追い風で競技できるように配慮し、全員が自己ベストを狙います。また、今回から9位以下決定戦を設定し、競技者が何回も自己ベストに挑戦する機会を設定しました。各種目で多くの競技者が自己ベストを更新し、次の大会へ自信を持って臨めたのではないのでしょうか。

実業団対学生対抗陸上競技大会は昨年から大幅にリニューアルし、サブタイトルもオールスターナイト陸上と銘打って、夕方からの開催となりました。今年はさらに優勝者への賞金の金額もアップし、競技者にとってさらに魅力ある大会になりました。大会を

観戦に来ていただく観客の皆様にも競技が魅力的になるよう大会プログラムの販売を実施しました。プログラムの内容も充実させ、競技の見どころなども準備してプログラムだけを見ても大会を楽しめるような工夫にも取り組みました。

天皇賜杯日本学生陸上競技対校選手権大会では、2年前の悪天候による日程変更を思い出しながら、3日間良いコンディションで大会ができることを祈りながらの大会運営となりました。幸いにして、天候も大きく崩れることなく、3日の大会を日程通り開催することができました。リオデジャネイロオリンピック後の競技会ということで、4×100mRで銀メダルを獲得した桐生選手に注目が集まった大会でしたが、次世代を担うアスリートも確実に成長している姿を見せてくれた大会となりました。

前半3つの大きな大会を終えて、競技委員会としての課題は、それぞれの競技場で施設設備や使い方の条件が異なる中、どのようにして均一なレベルを保って競技会運営するかまた、観客の方々にそれぞれの競技の魅力をどのように伝えていくかだと思っています。

学生審判員の質の向上、魅せる競技会運営の実践を念頭に置きながら、次年度の大会に向け、競技委員会内での協議を活発に行ったり、各種の研修を通してこれからもメンバーひとりひとりが研鑽をしていきます。

平成28年度強化委員会活動報告

強化委員会 委員長 栗山佳也

平成28・29年度強化委員会は32名の委員で構成されることになりました。副委員長4名、短距離ブロック6名、中・長距離ブロック5名、競歩ブロック2名、跳躍ブロック2名、投擲ブロック4名、混成ブロック2名、各地区ヘッドコーチ6名(委員の重複を含む)となっています。旧委員会と変わったところは、構成員全員での会議は難しいことが多かったため、各ブロック長・地区ヘッドコーチで意見集約をして頂き、問題点などがより良く反映できるよう委員会活動の効率化を目指すこととしました。その第1回委員会を9月1日熊谷で開催し、ユニバーシアード、出雲大学、日本インカレなどに関する案件について審議を行いました。

1 第29回ユニバーシアード台北大会について

次回ユニバーシアードは台湾・台北市での開催が決まっています。それに伴い、選考基準となる記録の委員会案を審議した。前回大会までのリザルトを参考に各ブロックから派遣標準記録の提案があり、前回大会とおおむね変更はありませんでしたが、世界の現状と種目バランス等を鑑み、審議された強化委員会案を理事会に提案し承認されました(表1)(男女競歩を除く)。なお、一部種目の選考競技会は未定ですが、来年6月の日本学生個人選手権を最終選考会とし、派遣標準記録の有効期間は2016. 4. 1~2017. 6. 11とすることが確認されました。

2 出雲大学駅伝について

中・長距離(ロード駅伝対策)ブロックより2017年大会から上位3位までの入賞校のシード制を廃止し、出場枠数はその年の成績を基に毎年見直します。出場枠1の地区学連は選抜チームか単独チームかを選択できるようにする、との提案があり理事会にて承認されました。

3 日本インカレについて

現在3日間の日程で行われていますが、特にトラック種目が過密になり特定の種目で1着+aで選手にとって非常に厳しい現状があります。それらを緩和し対校戦本来の内容が反映されるようにするならば、4日間日程での実施を検討する必要があります。しかしながら、競技場、審判員確保、宿泊費、交通費など課題も多く、継続検討課題とすることとしました。

リオ・オリンピック大会では、日本の4×100mR 37"60のアジア新記録で銀メダルを獲得したことは記憶に新しいところであります。また、20km競歩7位、50km競歩では銅メダルに輝き、日本の競歩種目で初のメダルを獲得したことなど陸上史に残る素晴らしい活躍がありました。学生選手としては、4×100mR 桐生祥秀君(東洋大)、20km競歩の松永大介君(東洋大)の他7人でありましたが、次の東京大会を学生強化の大きな契機とし最低でも15人を超える選手を派遣したいものである。そのためには学連と他の組織間の協力体制を一層密にしていく必要があると思われます。

ユニバーシアード過去3大会の派遣標準記録および2017年台北大会(案)

2016.9.1現在

	男子				女子			
	2011 深圳	2013 カザン	2015 光州	2017 台北	2011 深圳	2013 カザン	2015 光州	2017 台北
100m	10" 45	10" 40	10" 40	10" 40	11" 70	11" 70	11" 70	11" 70
200m	21" 00	21" 00	20" 85	20" 85	23" 75	23" 90	23" 90	23" 90
400m	46" 30	46" 50	46" 50	46" 50	53" 00	53" 50	53" 50	53" 50
800m	1' 48" 00	1' 48" 00	1' 48" 00	1' 48" 00	2' 03" 00	2' 03" 00	2' 03" 00	2' 03" 00
1500m	3' 43" 00	3' 43" 00	3' 43" 00	3' 43" 00	4' 15" 00	4' 15" 00	4' 15" 00	4' 15" 00
5000m	13' 50" 00	13' 50" 00	13' 45" 00	↑ 13' 43" 00	16' 10" 00	16' 10" 00	16' 00" 00	16' 00" 00
10000m	28' 50" 00	28' 50" 00	28' 50" 00	28' 50" 00	34' 00" 00	34' 00" 00	34' 00" 00	34' 00" 00
ハーフマラソン	1: 04' 00	1: 04' 00	1: 04' 00	1: 04' 00	1: 13' 00	1: 15' 00	1: 13' 00	1: 13' 00
100mH	-	-	-	-	13" 30	13" 00	13" 30	13" 30
110mH	13" 75	13" 85	13" 85	13" 85	-	-	-	-
400mH	49" 80	50" 00	50" 00	50" 00	57" 00	57" 20	57" 20	57" 20
3000m SC	8' 40" 00	8' 48" 00	8' 40" 00	8' 40" 00	10' 00" 00	10' 05" 00	10' 05" 00	↑ 9' 50" 00
20km競歩	1: 28' 00	1: 26' 00	1: 25' 00	後日発表	1: 40' 00	1: 38' 00	1: 36' 00	
4×100m								
4×400m								
走高跳	2m21	2m21	2m21	2m21	1m86	1m86	1m86	↓ 1m84
棒高跳	5m40	5m40	5m40	5m40	4m20	4m20	4m20	4m20
走り幅跳	7m80	7m80	7m80	7m80	6m40	6m40	6m40	↓ 6m30
三段跳	16m60	16m60	16m60	↓ 16m50	13m70	13m70	13m70	↓ 13m60
砲丸投	18m30	18m30	18m30	↓ 17m70	15m50	15m50	15m50	15m50
円盤投	57m00	57m00	57m00	57m00	54m00	54m00	54m00	54m00
ハンマー投	70m00	70m00	70m00	↓ 68m00	64m00	64m00	64m00	↓ 63m50
やり投	74m50	74m50	74m50	↑ 75m50	54m50	54m50	54m50	↑ 55m00
七種競技	-	-	-	-	5700点	5700点	5700点	5700点
十種競技	7800点	7700点	7700点	↓ 7600点	-	-	-	-

2015年の派遣人数 23+9=32

「陸上競技研究」発行における 平成27年度スポーツ振興くじ助成金の実施結果について

日本学生陸上競技連合は、「調査研究」を公益目的事業の1つとして掲げているなかで、「陸上競技研究」を年4回発行し、加盟校および会員の皆様にお届けしております。

平成27年度は、スポーツ振興くじ助成（t o t o助成金）を受けて第101号～第104号を発行しました。この助成事業実施に関わる結果は以下の通りです。

【平成27年度「陸上競技研究」発行事業の収支計算書】

(収入)

科目	平成27年度	備考
くじ助成金	2,403,000	
個人購読会員売上	1,308,000	
自己負担額	2,131,800	
合 計	5,842,800	

(支出)

科目	平成27年度	備考
印刷製本費	1,897,560	
諸謝金	194,400	
旅費	114,480	
消耗品費	138,240	
通信運搬費	635,040	
雑役務費	2,473,200	
その他	389,880	
合 計	5,842,800	

「陸上競技研究」発行における 平成28年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について

日本学生陸上競技連合は、「調査研究」を公益目的事業の1つとして掲げているなかで、「陸上競技研究」を年4回発行し、加盟校および購読会員の皆様にお届けしております。

平成28年度は、第105号～第108号を予定しております。本年も昨年に引き続き、スポーツ振興くじ助成（t o t o助成金）を受けて実施する予定です。この助成事業の平成28年度収支予算は以下の通りです。

【平成28年度「陸上競技研究」発行事業の収支予算】

(収入)

科目	平成28年度	備考
くじ助成金	2,138,000	平成28年度決定
自己負担額	2,535,040	
購読者売上	1,200,000	
合 計	5,873,040	

(支出)

科目	平成28年度	備考
諸謝金	159,840	
旅費交通費	120,960	
消耗品費	116,640	
印刷製本費	2,010,960	助成対象経費
通信運搬費	613,440	
編集費／デザイン	2,462,400	助成対象経費
その他	388,800	
合 計	5,873,040	

日本学連では、平成28年度もスポーツ振興くじ助成金交付決定をいただきました。より内容の充実した編集を目指してまいりますので今後ともご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

平成28年度 賛助会員 (5月1日現在 順不同、敬称略)

ご入会ありがとうございました

入江 毅 佐藤 良男 石黒 成彬 菅原 明義 マット株式会社

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ¥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があります、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要な事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金が確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

◆日本学生陸上競技連合関岡康雄会長が平成28年9月12日22時29分急性白血病のためお亡くなりになりました。享年81歳でした。関岡会長はこれまで強化委員長、専務理事、副会長の要職をお努めになり、学生の競技力向上に尽力されました。オリンピック大会はコーチとして、またユニバシアード大会では監督として大なる功績をあげられました。15日にお通夜が、16日には告別式が滞りなく進められました。ご参列いただきました多くの方々に深謝申し上げます。日本学連は関岡会長の手腕に頼ることが多く、今後は3名の副会長を中心に、年間事業計画を間違いなく執り行いたいと思っております。皆様方もご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◆9月2日から4日までの日本インカレは、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催されましたが、男子では日本大学が、女子では大阪成蹊大学が総合優勝を飾りま

した。女子の大阪成蹊大学は初優勝に輝きました。両大学に賛辞をお送りしたいと思います。来年の日本インカレは福井で開催されます。

◆10月に入りますとすぐ出雲駅伝があり、月末には全日本大学女子駅伝、11月1週目には、全日本大学駅伝と続きます。それぞれの駅伝では実行委員会を何回も重ね「盛り上がり」のある駅伝を目指しております。

◆今年度の普通会員(登録会員)は8月末の段階で2万人を越えました。学生のスポーツ団体としては非常に大きな組織となりました。

◆また来年8月下旬には台北市でユニバシアード大会が開催されます。日程から見ると来年6月の個人選手権が最終予選会になる可能性があります。ユニバシアード大会を目指して頑張っていたいただきたいと思います。

(専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第 106 号
2016, No.3
2016 年 9 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は季刊研究誌『陸上競技研究』を発行しています。購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。

バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。